# 世界婦人

●本紙は世界主義を標榜して婦人解放を主眼とす

## 無政府共產主義の大成者クロポトキン

（政治上に於ける自然主義の一派）

石川旭山

### 一、序

予は、昨年四月、平民新聞の筆禍に逢ふて巣鴨獄裡に投ぜられ、去月十九日、十三ヶ月の刑期を了へて無事出獄するを得たり。本編は即ち其在獄中に編纂せる『西洋社會主義史』中の一節なり。

予の在獄中、福田老姉の勞を煩はすこと甚だ多大、一切のこと不便なるが中にも能く此一著作を成就し得たるもの、之れ全く姉の賜なり、されば出獄の上は世界婦人の上に余の力の及ぶ限りを傾け盡さんと、素より予の責務なり、覺悟なり、然るに出獄匆匆、四邊茫々として尚ほ夢裡に彷徨するの心地にて、新たに文章を草するの氣力さへ無し、已むを得ず、獄中の作物中より一節を拔いて以て其責に充てぬ。

聞くならく、昨年來、日本の文藝界には自然主義の論唱喧擾を極めたりと、其自然主義とは果して如何なる意義なりや、予、未だ之を詳知せず、然れども、政治上の自然主義と言へば、直ちに之れ無政府主義を指示する者となすも不可なかる可し。

無政府主義に二派あり、一は個人的（或は哲學的）無政府主義といひ、一は共產的無政府主義となす、獨のスチルネル、米のツックルの如きは即ち前者に屬し、バクーニン、クロポトキン等は即ち後者に屬す、又た『自然的社會論』の著者たるヱドモンド、バークの如きも個人的無政府主義者中に數ふるを可とすべし、更に、米國奴隷解放運動に有名なるウヰリアム、ロイド、ガリソンの如き、露のレオ、トルストイの如き、亦た一種の無政府主義者（基督敎無政府主義或は平和的無政府主義の稱あり）と稱せらる。

左に掲ぐるクロポトキンの傳記は同翁が自叙傳たる"Memoirs of a Revolutionist"を拔粹せるものにして、『パンの略取』は即ち"Conquest of Bread"の要點を摘記せるものなり、『パンの略取』一編は蓋し無政府共產主義を最も完全に說明したるもの、本紙上に於て讀者諸君の舊識たる幸德秋水君はクロポトキンと志を同うするもの、一人にして、目下故郷土佐に在りて此大著の翻譯に專心し居り、不日大成の見込なりと言ふ、吾人は我國に於けるクロポトキンの同志として幸德兄の如き人物を得たることを深く喜び、且つ深く誇りとするものなり、而して其翻譯の速かに大成して我が國の同志の久しき渇を醫されんことを待望するや甚だ切なり、若し夫れ、讀者中未だクロポトキンに就て多く聞く所無かりし諸君に對しては、本編亦た聊か其入門の一方便たるを得べけん乎。

### 一、クロポトキンの畧傳

▲少年時代

プルードンは無政府主義の先驅なりき、バクーニンは無政府主義の開祖なりき、レクルスは其助成者なりき、而してクロポトキンは實に其大成者と言ふべき乎、バクーニンは、主として、無政府主義の破壞的方面に活動し、クロポトキンは、主として其構成的方面に貢献せりと稱すべき乎。

クロポトキンは一千八百四十二年露國舊都モスコウなる貴族の家に生る、父は頑固なる軍人なりしが、母は優しく麗はしく、慈愛の心深く、文學の趣味才能にさへ最とも勝れたる人なりき、されど其慈愛深き母は未だ四歲に充たざるクロポトキンと六才に充たざる其兄アレキサンデルと長子ニコラスとを遺して身まかりぬ、其後ニコラス皇帝のモスコウに來れる時、クロポトキンは偶然の機會によりて、皇帝近侍の候補者に選ばる、彼は家兄アレキサンデルと共に家庭敎師に就きて、佛語、獨語、其他普通學を修めしが、其歷史の日課を學ぶに際して深き感動を佛國大革命の物語より受けたりと云ふ、彼は十六歲にして愈々聖ペテルスブルグの近侍修業所に入りぬ、當時露國青年間には既に新思想の横流せるあり、クロポトキンが修學所に入れるの時、同所に於ても亦既に新思想新精神の旺盛なるを見たり。

無政府共產主義大成者

クロポトキン翁

▲革命思想

新思想の流行は即ち革命思想の誘發を意味せりき、青年にして今まで軍隊的教育に委せられたるクロポトキンの如きも既に深く其空氣を吸收し始めたり、彼は其自叙傳中に記して曰く「一千八百五十七年より一千八百六十一年に至る間は露國人の智識力に豐富なる發達を來せし時代なりき、過去十年間僅かに私交上の集會に於て談論せられし題目は、彼のツルゲネーフ(Turgueneff)・トルストイ(Tolstoi)ヘルツエン(Herzen)バクーニン(Bakunin)オガリヨフ(Ogarioff)カヴエリン(Kavelin)ドステヴスキー(Dostoevsky)グリゴロウイッチ(Grigorovitch)オストロヴスキー(Ostrovsky)ネクラソフ(Nekrasoff)等の時代となるや、悉く著作となりて天下に流行するに到れり、當時政府の撿閱は甚だ苛酷なりき、されど政治的事項にして公然明白に唱導する能はざるものは、諷諭的描寫に成れる小說の假裝を被りて其關門を通過せしめられき、予は聖ペテルスブルグに於て、學友及び僅少なる親戚以外に知人無かりしを以て、此時代の急進的運動より遙かに隔離せる地位に在りき、されど其運動の新精神は我が修學所の如き穩柔なる學校にすら弘通し、又た我がモスコウなる親族間にすら其反響を及ぼせし程の力を有せりき」。

クロポトキンが親族にして曾てモスコウに在りしもの、當時故ありて聖ペテルスブルグに移住せり、彼は日曜と祭日とを此家に暮すを例となせり、而して彼は此處に初めて革命文學に親接したり、彼は此家庭に就て述べて曰く、「此家の如きは蓋し最も後ればせに革命的思考に心を傾けしものなるべし、然も余が初めて當時の革命的文學に接するは實に此家に於てせるなりき。彼の有名なる亡命者ヘルツエンが『極星』と稱する評論誌を倫敦に發行して當時の露國（宮中すら）を震盪し、殊に聖ペテルスブルグに於て廣く購讀せられしは恰も此時にありき、我が從姉は或る手段を以て之を手に入れ、我等は相共に之を讀むを例としたり……其『極星』の表紙に印刷せられし、彼の五人のデセムブリストの尊むべき肖像を見るに殆んど崇拜の感興を以てせりき、其デセムブリストとは即ち一千八百二十五年十二月十四日の叛逆を企てニコラス一世の爲めに絞首せられしベスツエフ、カホヴスキー、ペステル、リレーフ、及びムラビエフ●アポストル等是なり。

『ヘルツエンの文体の優美なる……其思想の該博なる、而して其露國を愛する深切なる、實に予の心を奪へりき、されば予は再三反覆して之を讀み、且つ予が頭腦を以てせるよりは寧ろ滿腔のハートを以て之に對するを例とせりき。

クロポトキンは、忽ちにして革命的精神に

（以下九頁迄各頁を通じて續く）

●女子大に讀むべく男子盛んに讀まざる可からず



Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

感染したり、一千八百五十九年若くは其翌年彼は自ら革命的ペーパー（固より筆記を以て成れるものならん）を編するに至れり但し當時彼は立憲主義者にして、其ペーパーは露國の爲めに憲法の必要を勧告せるものなりき、彼は同校學生に之を秘密に配布して、一、二の親友を得たり。

▲農奴解放

農奴禁止の問題は又た當時少しく露見わる者の悉く注意せる所なりき、是より先き一千八百四十八年の歐洲革命は遙かに隔てし露國農民の心胸中に反響し、一千八百五十年よりは農奴叛逆の怖るべき形勢を呈はし、クリミヤ戰爭起りて動員令の全露に及ぶや、其叛逆は未曾有の激動を以て蔓延したり、此くて農奴所有者の殺害となり、軍隊の威嚇となり、事態は頗る切迫し來り、農奴制度は世人の深く嫌惡する所となり、農奴解放の聲は漸く高まりぬ、更に此時に當りアレキサンデル二世の皇位繼承は又た農奴解放を頗る緊急ならしめたり、蓋し彼自身既に此制度を嫌惡せしを以てなり、而して一千八百六十一年二月十九日即ち皇帝即位の紀念日を以て愈々解放の勅令は發せられぬ、而して「自由！」てふ歡喜の叫びを揚げたるものは、實に啻に農奴のみに非ざりき、クロポトキンの如きも多大の感興を以て此勅令を讀みたる一人なりき、然れども農奴解放は露國經濟上に大激變を來せると同時に農民をして未だ曾て見ざるの慘境に陥らしめ、而して革命的精神と運動とを増々蔓延せしめ、増々激烈ならしむるに至れり。

▲軍隊生活

一千八百六十一年六月クロポトキンは近侍隊の軍曹に薦選せらる、是れ實に異例の拔擢に屬せりき、元來此の選に與るものは附は上級の生徒中に首席を占むる者に限られしに、彼は數年間我が級の首席を占めたるの理由によりて特に此の異例の選拔を受けし也、此の當選は尋常の場合に於ても大なる名譽にして、且つ將來立身の大希望の懸る所たりき、殊に此選に當れるものは、皇室の近侍となりて常に皇帝に親近し仕へるを以て一般士官の深く羨望する所たりき、かくて一千八百六十二年五月彼の同級生は愈々士官となりて各々其所屬軍隊を選擇するの時となりぬ、彼等は皆我が好む所、殊に立身に便なる所を選んで喜躍するなりき然るにクロポトキンの志望は既に軍隊にわらざりき、彼は更に大學に入りて修學せんの熱望を懐けるなりき、殊に彼が好む所は科學の研究に在りき、彼は種々配慮の後、遂に人の豫想だも及ばざるアムールのコサック騎兵隊を選びたり、而して是れ彼が西伯利亞大陸に於て種々なる地理學上の發見を爲すの因縁となれり。

▲西伯利亞生活

クロポトキンが西伯利亞に於ける數年間の生活は、更に重大なる影響を彼が思想と生活との上に及ぼせり、即ち一は無政府主義を信ずるの準備を爲せしと、一は彼が軍隊生活の甚だ過誤たりしことを自ら覺りしと是なり、彼は自ら述懐して曰く、

「予は西伯利亞に在りし數年間、他所に於て容易に學ぶとは能はざる多くの學科を修得したり、予は彼の行政機關の如き手段を以てしては、到底民衆の爲めに眞に必要なる事業を爲すと不可能なるとを實見したり、予は此の如き誤謬を全然離れたり、かくて予は啻に人類及び人類の本質のみならず、實に人類社會の内發的生命を解し始めたり。書籍に記さるゝと甚だ稀なる隱れたる民衆の構成的勞働と其構成的勞働が社會の形成發達に重要なるとは充分に予の眼前に顯はされぬ、即ち例へば、アムール地方に移住したるヅコボルツィー共産村の如き是れにして其の半共産主義的同胞組織に依て多大の利益を得たるを見、且つ國家の殖民政策が總て失敗せし中に彼等の殖民が獨り驚くべき成效を遂げたるを實見して、書籍に由りて到底學ぶと能はざるものを學得したり、更に又た土民と共に生活するに及びて、彼等が曾て文明の影響を蒙らずして、而も頗る發達したる有ゆる複雜なる形態を其社會組織の上に經營せるを實見せるの一事は、予の後日の研究を照せる大光明となれり歴史上に於ける總ゆる重大なる事件に於て——戰爭に於てすら——隱れたる民衆の活動せる部面は其直接の觀察よりして明瞭となりぬ、而して予は、トルストイが其大著『戰爭と平和』中に於て首長と平民とに就て言明せる所と同じき思想を有するに至れり。」

「農奴所有者の家庭に生れたる予は、當時代の總ての青年と等しく指揮、命令、叱責、懲罰等の必要を深く信じて以て實際生活に入り行けり、然れども予が重要なる事件に統率して群衆を取扱ふに至りし時、而して各種の錯誤が一時に困難なる結果を誘致せんとするに至りし時、其指揮訓令を主義とするの處置と、平等合意を主義とする處置との差異を批判し始めたり、前者、軍隊訓練の上に稱讃すべき作用を爲すと雖ども眞實の生活に關しては何等の價値無く且つ其目的は多數一致せる意思の嚴格なる力を以て遂行せらるゝのみ、予は當時未だ論爭的の文字を以て予の觀察を組織するに至らざりしと雖も、而も予は從來愛好せる國家[?]令の價値に對して全然其信頼を失ふに至れり、予は實に一の無政府主義者なるべく準備せられし也……省畧』

『總て此の如き事態に依りて、西伯利亞に於ける生活は予に益々疎ましくなりぬ、一千八百六十四年我が兄アレキサンデルは其自分コサックの一隊を率ひつゝありし、イルクーツクに於て予と相結びしに係はらず予は益々此地を厭ふに至れり、元より吾等は共に生活するを幸福とせり、吾等は相共に多くの書を讀めり、而して當時の哲學、科學、社會學上の有ゆる問題を論じたりき、されど吾等兩人とも智識的生活を望むや切なりき、而もシベリヤに於ては何物をも存せざりき……吾等が新聞紙上に聞ける所の西歐に於ける科學上殊に政治上の事態は吾等を感動せしめたりき、而して、露に歸らんの一語は吾等の談話に始終反覆せられし所なりき、終に一八六六年の被追放波蘭人の一揆は露國軍隊の士官として吾等兩人が占領せる不正なる地位に對して吾等の眼を見開くに至りぬ。』

▲軍隊を去て大學に入る

『かくて彼等は遂に軍隊の勤務を棄て、露都に歸らんと決したり、然れども是れ決して容易の事業には非ざりき、殊に西伯利亞に於て結婚したるアレキサンデルは其困難を感ずると多大なりき、而も萬事は遂に整備せられぬ、一八六七年始めつ方、彼等は聖ペテルスブルグを指して歸途に就けり。

同年初秋、彼等は無事に聖ペテルスブルグに就きぬ、而してクロポトキンは直ちに大學に入りて己れよりも遙かに年若き少年と相伍して机に向ひ、且つ其専ら螢雪を友とすると五年の久しきに及べりき、彼が此間に於て深き喜びの中に科學の研究に専心したるとは彼自ら特書する所なり。

▲西歐最初の旅行

一八七一年クロポトキンは父をモスコウに葬りぬ、而して翌年春早々、始めて西歐漫遊の途に就きぬ、先づ瑞西ヅーリッヒに至る、當時ヅーリッヒは露國來の男女學生を以て充滿せり、而して彼等は皆な社會主義の討論研究に忙殺せられき、巴里コムミユーン以來、彼の萬國勞働者協會は歐米兩地の全階級の民衆が等しく意を注ぎし所にして兼てより是に注目し居りしクロポトキンは更に深き感激を以て其運動を望見するに至れり、彼は自ら記して曰く『萬國勞働協會を充分に研究したしとは予が多年の宿望なりき、露國新聞紙に於ても時々之に就て記する所ありしと雖ども、而も彼等（新聞紙）は協會の主義若くは事業に就て記することを許されざりき、予は之を以て必ず充分なる效果を有する一大運動なるべしと感じたり、然れども予は其目的と意向を捕捉すること能はざりき、今や予既に瑞西に在るを以て、其宿望を滿足せんと決心せり』と、かくて彼はヅーリッヒに到着するや直ちに萬國勞働協會の一地方支部に加入したり、而して先づ其研究に專心しぬ、彼自ら記して曰く『予は直に我が露國の友に問へり、如何にせば今ま諸國に行はるゝ此大運動に就て更に多く研究するを得べきかと、讀めよ、とは即ち彼等の答なりき、然るに此時ヅーリッヒに修學に在りし予の義姉は、多數の書籍と過去二年間の新聞合本とを予に齎せり、予は數日數夜、一心に之を讀めり而して何物も之を抹殺すると能はざる深き印象を受けぬ』彼は益々讀むに從つて、身自ら新世界に逍遙するの心地するに至れり、かくの如くにしてヅーリッヒに留まると數日、彼は轉じてゼネヘに赴きぬ、蓋し同地は當時萬國運動の一大中心たりしを以てなり、彼は此地に至りて親しく勞働運動に接近し、屢々開かるゝ勞働者の集會に出席し且つ親密に其勞働者と交際するに及び、彼は實に彼等の眞面目に、彼等の熱誠に、又た彼等が其運動の爲に心勞するとに深く感動せりき、而して彼は曰く『予は如何にしても彼等と其運動を共にせざる可らざると



Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

を増々深く感じ始めたり」

▲ヂユラ同盟

クロポトキンは更に轉じてニユーチアテル（Neuchâtel）に趣き、ヂユラ山上に在りし時計師の中間に入りて一週日餘を費せり、是れ彼が此の有名なるヂユラ同盟と始めて親近したる因縁なりき、ヂユラ同盟は是より後數年間近世社會主義の無政府主義的發達に重要なる役目を充たせし團體にして、クロポトキンが瑞西到着以來逍遥せし團體中蓋し尤も其意に適ぜしものなりしならん、恰も當時（一八七二年）ヂユラ同盟は萬國勞働協會總務局に對して反抗しつゝありき、「抑ゝ萬國協會は、元と純然たる勞働者の運動にして、勞働者は之を以て決して政黨とは爲さゞりき、然るに巴里コムミユンの勃發するや、萬國協會總務局は倫敦より此一揆を指揮せんと欲したり、是れ一個の統治體を作る所以にして極端なる自由主義者に對しては甚だ不都合の感を與へたるを疑ふ可らず、而に一八七一年の倫敦協會秘密會議に於て、總務員は協會をして議員選擧運動を助けしめんことを決したり、是れ實に如何なる政府も害惡なりと信ずる人を妨害する所大なりき」かくて無政府主義は其前初の問題に對したり、而してヂユラ同盟は實に其反抗運動の中心と言ふべきなりき、而してクロポトキンは此ヂユラ山滯留中に於て全然無政府主義者となりぬ。

▲祖國に歸る

彼は無政府主義者となりて此に歸國の途に就きぬ、而して彼が多大の元氣と希望とを懷いて、且つ斷へず熟慮し來れるものは其確乎たる新理想と多數の書籍と多數の社會主義新聞となりき、彼は若く僥倖して國境に於る嚴重なる檢閲を脱し、幸にして其革命文書を祖國境内に運搬し、欣躍して道を聖ペテルスブルグに急げり、「予は此凱旋紀念品を我が兄に示さん爲め、ワルソウにも留まらずして、直に聖ペテルスブルグに趣きし程嬉しかりき」とは彼自ら記する所也。

當時露國に於ては、既に盛んに青年の革新運動起り居れり、虛無主義の哲學的道德的傳道運動は稍々として青年男女の全社會を風靡せりき、當時彼等の運動の主眼は人民の教育にあり、彼等は或は醫師となり、或は其助手となり、或は教師、村書記、農業勞働者、鍛冶屋、機工、産婆、看護婦等の職に就きて親しく人民の中に入り行けり、然れども彼等は未だ社會改造に就て如何なる理想をも有せず、又た革命的の思想を有せざりき、彼等は唯だ人民を教育し補助して之を物質的精神的社會的に向上せしめんとするに止まれり、されば、クロポトキン氏の國に着くや、彼の萬國協會より己が受けたる印象と其所抱し來れる齋論とを朋友間に分んとを急ぎたり、されど彼は小學内に於て新思想を以て相結べる唯一人の友を有するのみなりき、是は其友人の勸誘によりて彼の有名なるチエイコウスキー（Tchaikovsky）の團體に加盟したり、且つ團體は同初團員各自の修養を目的として成立し、青年男女の極めて少數なる者に過ぎざりき、然るに後漸く其人數を増加し、其青年革命的となるに於ては、露國青年中最も有名なるもの多くとなりぬ、有名なる女傑ソフイア、ペロヴスカヤ（Sophia Perovskaya）の如きも此團員なりし也、クロポトキンが此に加入せるの時、團員の議論二派に分れ、一は教育ある青年間に急進的社會主義的傳道に努むべしとなし、一は遲緩なる多數勞働者を啓發せしむべき準備を以て其唯一の目的とすべしと主張せり、而して此の如きは當時諸方の團體に於て等しく起りし問題なりき、されど憲法要求の一事は彼等の共に一致する所なりしが如し、然るに時日の進むに從て政府の迫害は漸く苛酷に趣き、青年運動者は何時しか變じて危險なる革命運動たるの形勢を現じたり

▲チエイコヴスキー團體＝入獄

クロポトキンは此渦中に投じたり、而して彼は有名なるステツプニアク及びペロヴスカヤ等と兹に聖ペテルスブルグの勞働者間に熱心に傳道せりき、然れども彼は大學入校の時よりして同地の地學協會の書記となり、而して當時に有力なる著述者の一人なりき、故に彼は其革命の宣傳を爲すには必ず其服裝を改めて一個の農民となり、其名さへボロヂンと稱したり、而して彼は此の如く勞働者間に入り行ける時を以て最も幸福なる時と感じたりき、彼が親しく目撃し來れる西歐に於ける勞働運動の物語が彼等勞働者を感激せしめしこと幾何なりしぞ、彼は此の如くして最も樂しく幸福なる二ケ年を送れり、然るに何時しか狗の如き警察の之を嗅ぎ着くる所となり、彼は遂に：：（一八七四年）其毒手に陷りて陰鬱險峻なる城寨の牢獄に繋がるゝに至りぬ、チエイコヴスキー團體員は皆な被告人となり、而して其多くは既に捕はれて同獄舍に在りし也、此牢獄や、露國革命家に對しては仲々に多くの紀念を存せりき、露國革命運動の最初の殉教者たる彼の五名のデセムブリストは實に此處に始めて其遺痕を遺せし者なりき、詩人リレーフ、シユツチエンコ等も曾て此處に在りき、ドステヴスキー、バクーニン、チエルニシエヴスキー、ピサレツフも亦た此に投ぜられき、近くはカラコゾフの如き實に此に拷問せられ、此に刑死したる也。

▲脫走

クロポトキンは此思ひ出多き、此苦痛なる縲紲の下に二ケ年の風雨を忍び來りぬ、數名の同志は既に獄中に死し、又た他の數名は遂に發狂したり、されど彼等の事件は未だ法廷に現れしを聞かざりき、クロポトキンの健康は次第に殺がれて、自ら起居するさへ不可能なるに及べり、彼は遂に陸軍病院に送られぬ、彼果して如何の運命をか有す、幸ひに彼は茲に其健康を回復し得たり、此時愛慕に燃れる彼の同志は、政府の到底正義を以て待つべからざるを看取したり、而して茲にクロポトキン救出の計劃は熱心なる同志間に凝議せられ、危くも一度は過りて中止し、兩度合圖を爲して辛くも遂に虎口を免れ、かくて再び西歐に現はれて身を革命運動に投じたり。

クロポトキンは露國を逃れて、先づ英國海岸に到着したり、然るに倫敦は露國探偵の恐れあるを以て直ちにエヂンブルグに趣きて此に上陸せり、レバシヨフ（Levashoff）とは彼が當時の假名なりき、彼は早速自活の途を求めざる可らず、試みに己が久しく愛讀せる『自然』と稱する雜誌に寄書したり、然るに意外の歡迎を受けて幾何の資を得たり、然れども彼は固より規則的の收入を得ざる可らず、已を得ず倫敦に趣きて『自然』の編輯局を訪へり、彼は此時も亦嬉しき歡迎を受けて其編輯室に一箇の椅子を與へらるゝに至りぬ、茲に一の奇談あり、或日編輯者の一人、一種の露書を架より取り出して、クロポトキンの批評を求めたり、然るに其書は實に彼自身の著作たりしなり、一は『冰河時代』に關し、一は『亞細亞山脈論』是なりき、蓋しクロポトキンの在獄中に家兄が自ら此に寄送したる也、彼は即坐に辨答すること能はず、其翌日に至りて已れ其書の著者なることを明しぬ、（彼今レバシヨフと假稱するも）然るに其編輯局員は新聞紙上に於て豫て「クロポトキン」の逃走を知り居りし爲め、其無事に英國に着きしことを深く喜びたり。

▲西歐の革命運動

此間に於て、クロポトキンは既に瑞西に在る友人にして彼のヂユラ同盟の一有力者たるギヨームと絶えず通信を交はしたり、彼は長く倫敦に滯留せずして瑞西に趣きぬ、彼が地理學上に筆を執るの便否は瑞西に至るも倫敦に在るも變はると無ければ也、乃ち瑞西に行つて豫て親近せる萬國勞働協會ヂユラ同盟に加盟しぬ、時に一八七七年なり。

此時ヂユラ同盟は社會主義の發達の爲に貴重なる職分を盡しつゝあり、其同盟員中には亦た有數の人物を存せりき、ギヨーム、シユヰツツギユイベル、スピツチーゲル、レクルス、ルフランセー、ピンデー、ブルース、カフイエロ、マラテスタ等の如き、而して今やクロポトキンも亦た此團體に入りて熱心に無政府主義の宣傳に勉めぬ、親切に勞働者と談りぬ、而して疑も無く永久の新生命を此に建立したり、彼等の思想がマルクス派の集中主義集產主義と異ることは固より記せし處なるが、更に彼等はマルクス派の物質的幸福主義、經濟的中心主義に一歩を進めりき、クロポトキン自ら記して曰く「予、彼の勞働者及び其同盟者と親密なる交際を結べるの時、予は直ちに實見せり、彼等が其個人的利益を尊重するよりは寧ろ其人格的自由を尊重すると大なるとを、今より十五年前、彼、勞働者等は其物質的利福と交換せんが爲に、自己の人格的自由を統治者に賣らんと欲したり、而も其統治者の如何を選ばず、帝王にすら賣らんと欲したり、然れども、今や既に此の如き事あるを見ず」と。

一八七七年秋、白耳義に於て二種の社會黨大會開かれんとす、即ち一はエルヰルスに於て、他はゲントに於て開催せられんと



Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

す、後者は獨逸社會民主々義の下に全歐洲の勞働運動を統一せんとするものにして、殊に重大視せられたり、此に於てクロポトキンは大にラテン民族勞働團體の自治主義を扶持するの必要を感じ、二三の同志と共に之に臨めり、然るにレバショフてふ假名は既に白國警察の搜索名簿中に載り居りて、彼は再び危險に陷りしが、偶然の過失が却て僥倖となりて彼は再び英國に逃れたり、然れども彼は長く英國に留らず、海峽を横斷して更に巴里に赴けり、而して此に社會主義の煽動運動を開始したり、恰も此時、巴里コムミュンの同志特赦によりて歸來するあり、社會主義の氣焔、勞働者の元氣は俄然激越の調を帶びて復活せり、適々瑞西の同志より彼を呼ぶこと甚だ急、彼は乃ち之に應じて行けり、時に一八七八年なり。

▲「革命」新聞の發行

此時に當り、露國に於てはザッシュリッチのトレポフ（警視總監）襲擊事件あり、更にヘーデル、ノービリングの獨逸皇帝狙擊、パッサナントの伊太利王暗殺計劃、オリヴ・モンカシの西班牙王暗殺事件等相續いで爆發し、歐洲諸國の人民爲に戰々兢々たりき、忽にして迫害は瑞西に於けるヂュラ同盟に及べり、パウル・ブルースは捕縛せられぬ、同盟の機關たりし「[illegible]」は發行を停止するの已む無きに至りぬ、此時此處に來れるクロポトキンが使命は即ち之に次で無政府主義の機關新聞を發刊するに在りき、一八七九年二月、彼は同盟の同志と共に、苦心慘憺僅かに四弗の準備金を以て、此に「革命」と稱する小機關紙を發行したり、爾來久しきの間、「革命」は實に有力なる中央機關となりぬ、而してクロポトキンが此に努力せしと亦た尠少ならず、彼の歐米諸國語に翻譯せられし「青年に訴ふ」てふ小冊子の如き、即ち最初同紙上に揭載せしものなりき、然るに一八八一年に至り、彼は突然瑞西政府よりして追放の命を受けぬ、恰も彼の新婦人がゼネバ大學に於けるバチエラーの試驗に際したれば、彼は暫時ゼネバ湖畔の一小都トーロンに留まり、同年十一月妻君が試驗合格を待ちて倫敦に赴けり、嗚呼革命志士、何れの時か能く其迫害と困苦とに離るゝを得ん。

▲愈英國よりは佛國の獄

彼は英國に滯留する十一ヶ月、其間亦た決して傳道を忘れず、一八八二年の夏期中ニューカッスル、グラスゴウ、エヂンブルグ等に於て講演を開き、同國に於ける革命運動の實狀を語りて非常なる歡迎を受けぬ、されど彼と妻とは倫敦に滯留するの甚だ寂寥なるを感じ、且つ英國に於ける社會主義運動は到底希望なきことを看取するに至り、同年秋、再び佛國に赴くに決したり、彼夫妻にして若し佛國に在りしならんには彼等は共に捕縛せられしならん、されど彼等は互に語り合へり、「コンナ霧塲（英國を指す）の樣な所よりは佛蘭西の監獄が遙かに好し」と、斯くて再び佛蘭西のトーロンに赴ぬ。

▲リオン大疑獄

彼が英國に滯留中、一大恐慌のリオン府を襲ふあり、同市を中心とせる同地方の產業に一大騷亂を來し、而して彼がトーロンに歸りし後、同地方に於ては盛んにストライキの爆發するあり、殊に鑛山內のストライキは猛烈を極めたり、此に於て佛國警察は直ちに其狙の眼を無政府主義者に注ぎたり、有名なるリオン大疑獄之より起りぬ、何等の關係をも有せざるクロポトキンも亦た其渦中に捲き込まれて縲絏の人となり、一八八三年一月一日より開かれし大裁判に際し、彼は又た法廷の一人となれり、裁判は迅速に進行して、彼の同志は皆苛酷なる判決を受けぬ、而して其內最も重刑を蒙れる二十二人は同年三月クレイルボー Clairvaux の獄に押送せられたり、クロポトキンも亦た其一人なり、其裁判や固より不法不理を極めたるものなりき、世論は忽ち沸騰したり、特赦せよ！との絶叫は新聞に雜誌に演說に諸方に起りぬ、クロポトキンが重刑に科せらるゝや、多數の英國科學者は彼を放免せんことを請願したり、ヘーバート・スペンサーの如きも其署名者の一人なりき、更にヴヰクトル・ユーゴーの如き亦た自ら熱烈なる歎語を添へて之に連署したり、されど容易に放免令は出でざりき、「クロポトキンを放免するは外交上より困難なり」とは、時の首相が議院に公言せし所なりき、然れども、放免の要求は繼續して猛言せられぬ、遂に時は來りぬ、一八八六年一月中旬、クロポトキン等四人の同志と彼等に次で入獄したるルイズ・ミッシエル女及びポウグに對して放免令發せらる。

▲出獄して英國に來住す

クロポトキンの放免は同時に妻君の放免なりき、蓋しクロポトキンの在獄二ケ年間妻君は之を慕ふて其監獄の門前に寓居したれば也、かくて彼等夫妻は嬉しき互の手を取りて遂に巴里に趣き、茲に數週間滯留して傳道演說をなし、更に道を再び倫敦に趨けり、嗚呼東奔西走、南逃北退、未だ曾て席の溫まるを知らざる彼は四度英國の海岸に上陸しぬ、世に革命志士の運命ほど奇しきものは無かるべし、彼匆々倫敦に到りし時、測らざりき親しき故き二人の友と相會せんとは、二人の友とは誰ぞ、一はステプニアク、一はチエイコウスキー即ち是也、されど此時に當り、彼は何物よりも悲しき報導に接して其胸を打ちぬ、親しき懷かしき天上天下唯一人の家兄が既に此世の人に非ずなりぬとは疑ふ可らざるの報導たれば也、彼の兄は彼が亡命して後、次で陰險なる警察の毒手に懸りて西伯利亞に徒刑の身となりしが、絶望の極に陷りて遂に世を去りしなり、暗雲は久しく彼が矮屋を閉したり、されど其翌春に至りて幸ひにも一小光明は其中に照り入りぬ、妻君始めて愛らしき一女兒を產みたるなり、彼は乃ち亡兄の名を以て其愛兒に冠らしめぬ、是れ去りにし兄を偲ばんとての深き追慕の心なりき。

彼が英國に來るや、英國社會主義運動は鬱勃として發達し來り、バーンス、ヘインドマン、チャンピオン等皆に全力を傾倒して其擴張に努力するの時なりき、前年滯留の時に比し其光景頗る活氣を呈へるを見たるクロポトキンは心中多少の慰籍無きに非ざりしならん、されば彼も亦た諸方に講演を開きたり、但し彼の口より迸しりし主張が無政府的社會主義たりしは勿論なり、彼は同時に巳が嘗きに創立せる「革命」紙上、（當時編輯所を巴里に移せる）に「パンの略取」と題する論文を連載したり、是れ實に無政府共產主義を始めて組織的に大成せるものと稱すべく、又た彼が最大著作の一とするを得べし、更に其後「十九世紀」誌上に「農場、製作所、工場」Fields, Factories and Workshops）及び相互扶助論（Mutual Aid）等の諸大論文を相次で連載したり、何れも「パンの略取」と相並んで彼が大著とすべし、「農場製作所工場」は、從來の社會主義者が「剩餘價格」の原理に基きて單に分配の公平のみを主張するに對し、積極的に生產其もの、改革を主張せるなり、即ち智識教育の進歩によりて手工勞働と頭腦勞働とが愉快に同時に行はれ得る如く、農業勞働も亦た同様なるを得と說明せる也、「相互扶助論」は當時殆んど天下を風靡したるダルヰン主義、殊にヘックスレーの「生存競爭論」に反對したる大研究にして頗る世の歡迎する所となれり、其論旨は人類動物共に其本來の面目は「相互扶助」にして「生存競爭」は寧ろ相互扶助の一變形に過ぎずとするに在り。

是よりクロポトキンは居を倫敦に定め、主義宣傳の機關となし、「自由」と稱する小雜誌を創刊し、今日尚ほ健康にして其小雜誌の發行を繼續しつゝあり、其著「パンの略取」は以て彼が思想の全局を窺ふに足るべく、以て無政府共產主義其ものを明かにするを得べし、若し夫れ其論議序說の明快痛切なる、其言語文章の流麗瀟洒たる、讀む者をして卷を掩ふと能はざらしむ、されど其全部を記載するは本篇の到底許さゞる所なれば、予は其主要點のみを左に紹介すべし。

## 三、「パンの略取」梗概

「パンの略取」の大冊は學究的組織を成せるものに非ず、寧ろ其全篇を以て一大論文を成せるものと稱するを得べし、全篇を分て之を十七章となす、一、吾人の富、二、萬人の裕福、三、無政府共產主義、四、收用、五、食物、六、住居、七、衣服、八、手段方法、九、娛樂の要求、一〇、快き仕事、一一、自由合意、一二、反對論、一三、集產主義賃銀制度、一四、消費と生產、一五、分業、一六、產業の分置、一七、農業、即ち是れなり。

▲第一章　吾人の富

クロポトキンは、先づ吾人々類が既に久しき人生の旅路を經過して現代に至りしことより說き起し、其久しき間の多數の民衆の努力によりて今日の世界の富を致したるとに及び「眞に吾人は吾人自ら思惟するよりも遙かに富裕なり」と說き、而して更に轉じて、「文明社會に於て吾人は甚だ富める也


Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

然るに多くの貧者あるは何ぞや」との問を起したり、今日の一切の富と文化とは過去に於ける無數の民衆が辛き生涯を通して、殊に非常なる壓制虐待の犧牲となりて、吾人に遺せし因縁深き賜なり、「されば、誰が如何なる權利に依りて此莫大なる富の一小部たりとも之を私有するを得べきや、又た、此は我が物なり汝の物に非ずと言ふを得べきや？」「個人的占領は正當ならず、又た有益ならず、總體は總體に屬す」「[illegible]を各人へ」と言ふ如き曖昧なる態度に非ず「勞働するの權利」若くは「各自勞働の全果を」吾人の要求する所は、裕福なる權利、萬人が裕福なるの權利なり

▲第二章　萬人の裕福

「萬人の裕福は夢想に非ず」事實はマルサスの人口論と反對にして富力の增加率は人口の增加率よりも多大なり、一八四四年乃至一八九〇年の英國人口の增加率は六割二分にして生產力の增加は實に十三割の多きを致せり、而も今日に於ける生產的勞働者は頗る少數なり、見よ「佛國に於ては人口三十に對して實際の生產者は僅かに十人に足らず」且つ「幾百の紡織、幾千の製作所は期を定めて休業し、他は僅かに其製作力の半ばを用ゆるのみ……而して各文明國に於て勞働を求めて拒絕せらるゝ、爲に[illegible]に放浪する所の殆ど二百萬の民衆ある也」更に他を顧れば、彼の單に國外に市場を保持せんが爲めに、又た國内に橫領を逞ふせんが爲に設けらるゝ軍備に要する莫大なる浪費あり、事實に於て富は實に有り餘れる也「吾等の祖先が創著して取得し、建設し發明せし、此豐富なる資產は宜しく之を共有財產と爲さゞる可らず、斯くてこそ諸人の總合利益は以て萬人の最大幸福となるを得べけれ」「此に於てか、「收用」を爲さゞる可らず、總體の裕福は即ち目的なり、收用は即ち手段なり」「收用は——是れ歷史が二十世紀の人民の眼前に提供せし題目なり」「十九世紀の後半に於て既に思想上の一大變化を成就したり……此新精神は今や暴力を以て其束縛を破却し、而して革命に依て其精神を實現せざる可らず」然り、其源泉轟然として吾人の鼓膜を擊破するの時、吾人の當に爲すべき事は何ぞや」「吾人は從來革命の演劇的方面にのみ心を注ぎたり、一八四八年の運動も、一八七一年の巴里コミユンも單に一の叛逆に過ぎざりき、固より莊嚴雄大なる活動なりしと雖ども、未だ之を以て革命と稱すべからず、且つ彼等が其大活劇を演ずるの間、平民は常に飢え常に困窮したる也」「人民は困窮して曰く、如何にして此困難より脫するを得ん？」是れ革命を思ふ者の先づ解決せざる可らざるの問題なり、是れ議會の行動を以て解決する能はざる所なり、唯だ萬人を裕福せらしむべき貨物を直接に有効に占領するに依てのみ解決するを得る也。

▲第三章　無政府、共產、主義

「吾人は主張す、私有財產を禁止せる社會は、勢ひ共產的、無政府主義の方針を以て自ら組織せらるべきことを、無政府は共產主義を誘致し、共產主義は亦た無政府を誘致す兩者は共に等しく近世社會の最大傾向を表示するものなり、曾ては農家に於て其收穫せる穀物若くは其織り成せる綿布を自己勞働の產物なる如く思料し得たる時もありき「されど今日、各事各物が相關的なる、各種の產業が餘他一切の物と錯綜せる、現時の產業の狀態に於ては、產物の個人的起原を主張する事は絕對的に不可能なり」然らば此の總體の人が寄與せる富財を如何なる分量を以て各人に分配すべきや、「各人は、彼の各人の勞働時間に應ずる所の分配が理想的處置なりとする集產主義者と一致する能はず」蓋しマルクスの集產主義はスミス及びリカードの價格論より來れるものにして「勞働の機關を以て共同相續と思惟すべき社會に於ては支持すべからざる理想」なり、「賃銀制度は土地及び勞働機關の個人的所有より生起するもの也」勞働機關の共有制は之と同時に必然的に其共同勞働の產物の共有制を實施せざる可らず」「吾人は尚ほ主張す、共產主義は啻に望ましきのみならず個人主義の上に成立せる現存社會が共產主義の方途に推移すると是れ避く可らざるの趨勢なることを」「第十、十一、十二世紀の自治團體が其領主の支配より脫せし時、彼等の共同勞働及び共同消費制は迅速に擴張し發達したり」近時彼の「各人の必要に應じて各人に」てふ原則より成れる新組織は數多の形式を以て生起し來れり、橋梁の如き、道路の如き、無料博物館、無料圖書館、無料學校、無料食糧（小學兒童）の如き、又た公園の如き、市街點燈の如き、皆是れ「汝の要する所を取れ」てふ原則に基ける制度に非ざるは無し、而して之を要求する各人が社會の爲に如何なる勤勞を盡せしかは問ふ所に非ざる也、此の如き傾向は社會の生產力が增加するに從て益々有勢なり擴張せらる、されど吾人の共產主義はフーリエ一派の獨逸的國家社會主義者の共產主義に非ず「無政府的共產主義也、政府無き共產主義自由の共產主義なり」是れ數時代の間、人類が追究し來れる二個の理想——經濟的及び政治的自由を綜合したるものなり」「歐洲の社會が一定の地點に發達するや、彼等は每に個人自由の原理に基きたる（粗略ながら）一制度を構成したり、而して歷史は吾人に示す、此の如く一部若くは全部の革命の時代、政府頽廢の時代が、經濟的及び智識的の兩分野に於ける急速なる進步の時代たりしことを」、尚ほ吾人若し現代に於ける文明國民の發展の狀を觀察せんか吾人は僅かに政府の活動の範圍を常に增々制限し、而して個人の自由を增々認許する所の一運動を見る」「人は遂に自ら各種の政治組織より自由ならんと企て、而して同一目的を追求する所の個人及び團體の自由契約に依て以て其團結の必要を滿さんことを企つ、各々小區域の集合體の獨立は焦眉の急要となりぬ、相互合意は以て法律に代り、而して常に個人的利害を規定するに共同目的を標準とすべし」「吾人は既に新世界の光明の一閃を捕へ得たり、即ち個人を拘束する所の絆は最早法律に非ず、寧ろ社會的慣習、即ち、各自が其隣人の同情、共働、補助を得んとて自ら感ずる要求の結果——に在り」素より此の如き理想に對しては多くの障礙あり、政府、國家、法律等に對する一般人の迷信、更に其迷信を助長する所の敎育、新聞紙等、何れも現に有力なる作用を爲しつゝあり、然れども眞理の光明は遂に其暗黑を照すべし、現に此主張を强むる有力なる事實あり「其は即ち個人發意に基く事業の分野が日に日に擴大せられ、有ゆる種類の自由團體が驚くべき發達を爲せると是なり」是れ實に十九世紀後半期を充せる顯著なる事實にして、其の團體數は今や夥しき數に達せり「過去五十年間の歷史は、吾人に寄與するに代議政治は到底吾人の豫期せし職責を負擔し得べからずとの活ける證據を以てしたり、未來に於て、十九世紀は議會政治の失敗を證明するものとして引照せらる可し」されど人類は新たなる發展を求めつゝあり、而して既に發見しつゝあり」「萬國郵便同盟、鐵道同盟、及び種々學術上の協會は、法律の代りに自由合意を以て、事を決するの實例を吾人に與へたり」されど是等自由團體は新たなる經濟狀態と調和するが如く組織せられざる可らず「各種經濟的狀態は之と一致せる政治的狀態の存するを要す、されば政治生活の新形式を同時に創始するに非ずんば、財產に干涉すると不可能ならん」。

▲第四章　收用

「ロスチャイルド家に就て一場の物語りあり、一千八百四十八年の革命に際して彼れ財產上に威迫を蒙れる時、彼は次ぎの如き術策を以て僥倖を贏ち得たり、彼曰く、予は僅に予の財產が他人の損失に據りて集積せられしものなるを承認せんと欲す、されど若し明日之を歐洲數百萬の人衆に分配せんか、各自の分前は僅かに五シルリングに過ぎざるべし、好し、之を予に求むる人に各々五シルリング宛相渡し申すべしと、我が大富豪は其約束を公示して以て、恰も平常の如く、繼續して、フランクホルトの市中を悠々逍遙したり、通行者にして其五シルリングを求めしもの三四人ありしが、彼は冷笑を以て之に支拂ひたり、彼の術策は成功したり、而して此の大富豪の家族は尚ほ其富財を所有する也」中等階級の敏捷なる頭腦を有する人は之と同じ態度を以て言はん「ア、收用？予其意味を知れり、君、一切の外套を取れ、而して之を、群衆に與へよ、而らば各人自由に自己を守り、又た其最善に向て戰ふべし」と、「されど此の如き諧謔は輕卒なると共に見當違ひなり、吾人の求むる所は外套の分配に非ず、……又た吾人の求むる所はロスチャイルドの富財に非ず、吾人の要求する所は事物の排列にあり、即ち第一に此世界に產れたる各人類が或る有用なる職業を習得し且つ之に熟練するの機會を保證せられ、次ぎに、主人又は所有者の許諾を要せずして各自自由に其職業に從事するを得、且つ其製作物の大部分を地主又は資本家に橫領せらるゝとなき制度に在り、ロスチャイルド或はグンズブ



Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

イルドが保有する富財の如き、素より吾人の共産組織中に編入せらるゝのみ……然らば、賃銀を得ん為めに其勢力を賣るもの無かるべし、蓋し賃銀は其製作せしもの、――碎片に過ぎざれば也」吾人は彼の一の被服をも盗奪するを要せず、吾人は有る的品を労働者に與へんと欲す蓋し労働者にして之を缺げば横領者は容易に彼等を捕獲すべければ也」故に吾人は、何人も貧乏すると無く、唯の一人と雖も其一家を支へんが為に、其勢力を賣らざる可らざるに至るが如きと無からしめん為に、最極く施設を務むべし、是れ吾人の所謂、収用に含蓄する所の意義なり、是れ「革命」中に於ける吾人の義務なり、其革命や、吾人は今後二百年を待たずして、否寧ろ迅に、甚だ急に其來るを見ん」されば無政府主義及び収用の思想が、苟も獨立の精神を有する者の賛同を受くべきは蓋し吾人豫想の上にあらん、然るに吾人に同情ある者は曰はん、されど注意せよ、人類は然く急速に進歩すべきものに非ず、其考案を急に行はんは、甚だ危険なり、と、「されど収用に臨して、吾人の恐るゝは寧ろ之と反對の點に在り、即ち吾人の恐るゝは其収用を實施するに當りて之を究極まで斷行せざる時に在り」、例へば或る地方に於て収用が有効に行はれ得る場合に其地方に於ける土地を社會の公有にしたりとせんに、其地方の人民は皆自由に又た最も有益に其土地を耕作すべし、而して一時は随分繁榮の歡樂をも得べし、然れども直ちに窮時の困難は與ひ來るべし、更に一層の困難を齎らすべし、蓋し資本家は土地上の障碍を無くし又た之を利用して益々自由に勞働利を界称するに至るべければ也、「文明の社會に於ては一切の事物は互に相頼るものなり、其全部に若干せずして單に一部を改良するは不可能の事に屬す、故に吾人が私有財産を攻撃するに際しては……須らく其全部を攻撃せざる可らず、是れ革命の成就に必須の條件なり、然るに社會主義中には生産の機關と消費物品とを區別するものあり、例へば土地、鑛山、工場、製作所等は之を収用するを正當とするも、衣食住の如きは尚ほ之を私有財産として保存すべしと言ふ如き是なり、然れども是れ甚だ理由無きとなり、労働者より見れば一切の物件は皆是れ労働の結果なれば也」吾人が其全部の収用を主張するも、又た欲せざるも、平民の考ふる革命とは此の如き意味を有するなり彼等は政府を根底より一掃すると、否や、先づ第一に欲する所は其適當なる住居と充分なる衣食の保證にあらん」平民は彼の生産機關と消費物品とを區別する所の經濟學者の説よりは寧ろ科學に從つて其方針を立てん。

▲第五章　食物

來るべき革命にして若し社會的革命ならんか、單に其目的のみならず、又た其方法に於ても凡そ從來の一揆と異なれるもの存すべし、新目的を達せんと欲せば、新方法あるを要す」過去百年間に於て佛國に三大平民運動ありき、一千七百九十三年に於ける共和黨運動、一千八百四十八年に於ける勞働者運動、一千八百七十一年に於ける巴里自治民運動是なり、而して彼等が政治的自由或は經濟的自由の為めに勇敢なる戰鬪を為せしに係はらず、遂に失敗に歸せしは何れも皆な平民を飢えしめたるに在りき、或は平民にパンを與ふると少なかりし為め、或はパンを與ふるの時期かりし為め、飢えたる平民をして徒らに狂亂せしめ、徒らに病斃せしむるに止まれりき、「パン！革命が要するものは夫れパン也！」「吾人は宣言するの大膽を有す曰く、人皆なパンの權利を有す、現に全民の為めに充分なるパンを存す、「全民にパン」の標語を以て革命は勝利すべしと」されど此の根本的社會革命は一朝一夕に成就すべきとに非ず生産組織を改造するまでには多くの日子を要す、されば、其間に於て幾千萬の民衆の生活資料を如何にして求むべき乎」此に至りて此問題の實際的解決は唯一あるのみ、而して既に支持すべからざる現状を補綴する如き事を為さず直ちに新基礎の上に新産業の組成に着手すべし」吾人今ま此の如き活動の實行上の順序を考ふるに、先づ人民は叛逆地方の一切の食物の貯蔵所持を行ひ、其總額を嚴重に計量し、何人と雖も之を浪費するを得ざらしめ、而して其富源集積の非常時に從ひ民人をして此恐慌の際を免れしむるの用に供すべし」此の如く一朝革命に着手せば其組織改造は根底より且つ全局に亘りて行はざるべからず、即ち全然無政府共産組織を樹立せざるべからず、若し生産機關のみを共有とし、尚ほ賃銀制度を存すと云ふ如きに止めんか、平民は直ちに困難に陥り、反對的運動は更に起り、而して秩序の回復となるや、此に社會民主黨は無政府主義者を刑殺すべし、フワビアンは、社會民主黨員を絞首臺に登すべし、而して遂には保守主義者が彼等を刑殺するに至るべし、而して革命は終局を告げん『さて今革命を成就して無政府の状態に在りて果して正義平等に食物の分配か行はるべきか『凡そ此の如き細目の事に及んでは、中等階級の人々や又た中流民的偏見に染まれる労働者をして信服せしむるに足らざるべし、蓋し彼等は人民を以て、政府の支配なくんば直ちに互に相食み相亡ぼす所の未開の暴民なりと考ふればなり、これぞ人民が自ら發意して事を決行するの状を目撃せる者は直ちに信ずらん、若し民衆にして其場合の主人なさば彼等は嚴格に正義と公平とを以て全体各人に食物の分配を行ふべき事を」而して此の如く成立せる社會に於ては各家族は各々其嗜好に從つて適宜に自由に自己の食物を調理するを得べく、又た一旦共産制成立せる以上は始め之に反對せる者にも、勝利者にも、公平に分配せらるべし、又た此の如く食物の自由あらんか、怠惰者を生ずるの憂無きか、否、勞働が自由なる社會に於ては怠惰者に關する憂慮は無用ならん。

「革命の状態に在る都市は如何なる手段に依て食物の供給を受くべきか、是れ吾人の解決せざる可らざる問題なり、想ふに其手段は各地方に於ける革命の性質に依て異るべし……「若し一國全部が或は歐洲全部が同時に社會的革命を成就し、而して全然共産主義に着手せんか、吾人の手順は甚だ簡單なるべし、然るに若し歐洲に於ける一小都市が此計劃を為さんか、其手段は自ら他に存すべし」全歐洲が一時に蜂起して等しく共産主義を樹てんとは素より何人も望むならんも、蓋し到底實現すべからざるとならん、然らば既に革命の熟したる地方は尚ほ他の後進の地方の進み來るを待ち望むべきか「否らず、是れ假令望ましきとなりとも到底不可能のとに屬す、歴史は躊躇者を待たざるべし」若し佛國の巴里、マルセイユ、リオン、サン・エチエンヌ、ボルドー、の如き大都市の一が自立を宣言せんか他は其例に從ひ、又た多くの小都會も之に繼き更に鑛業地方産業地方の之に從ふべきは必定なり「農民は市吏或は收税吏來りて之を煩はすに非ずんば決して革命黨に敵對せざるべし、且つ其新事件の状態に從ひ、地方押領者への勘定を延引し得る限り之を延引すべし、而も此の場合は實際に農民を奮激せしむるを常とするものなるを以て（一千七百九十二年佛國革命に際して實例あり）彼等は其租税及び抵當の税を脱するに到るべき此新運動、此新事業に自ら投ずべし、而して其運動は増々彼等の好む所とならん」。

然らば、此に革命を成就せんとする都會ありとし、彼等は其食物を田舎地方の供給に依て得べき場合は如何にすべき、此ゝる場合は固より其紙幣は用をなさず、何を以て之に代へん、如かず地方田舎の要求する物品を都會の製作所に於て専ら製造し、以て田舎に於ける農作物と物々交換を行はんには、乃ち從來都會の富豪貴族等の奢侈品を製造せる多くの製作所は一轉して田舎農民の必需物品を製作するに至るべし、一國全部が革命を成就して他國より食物の供給を仰がざる可らざる場合亦た同じ。

▲第六章　住居

「如何なる意義に於ても住宅は國家が承認せし所有者の財産に非ず」とは都會の労働者が漸く到達せし決論なり、家屋は其所有者が建築せしものに非ず、是れ實に無數の労働者が材木所、煉瓦田、工場等に於て、最下等の賃銀を以て當れる生命を盡して以て、之を建立し装飾し造作したるなり」固より其所有者は之に賃銀を支拂ふと雖も、其金錢は元來勞働者の労働の結果を押領して得たるものに過ぎず、更に巴里の如き都會の家屋に就て考ふるに其巨大なる價格は單に之に費やせし労働其もの、價格に非ず、巴里其もの、為に然るなり、即ち勞働者、藝術家、思想家、學者、文學者等が巴里をして、今日の如く産業、商業、政治、技術、科學の中心たらしめしに因るなり『されば其土地の一小部又たは卑小なる一建物たりとも、極惡非道を敢てせずして誰か能く之を私有し得るものぞ、又た誰か其共同相續の最小部分たりとも之を入札者に賣るの權利を有すべき」故に家屋も亦他の財産と同じく人類共同の相續物件なり、來るべき革命には之も亦た人民直接に收用



Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

せざる可らず、革命の際も平和の時も、勞働者が家屋を要するは論ずるまでも無し、されば勞働者をして其主或は家主に借貸支拂を拒絕するは、是れ決して官廳破壞の爲に非ずして確實なる主義原理に基くものなることを會得せしめざる可らず。

『收用の思想にして若し人民の採用する所ならんか、假令吾人を壓迫する所の彼の「不可克の」障碍あるとも有效に實行せらるべし』然らば如何にして之を實行し得べきか、曰く「收用は人民自らの發意に依て有效に行はるべく、他の方法を以ては到底實現し得べからず」、「收用が公然着手せらるゝや否や、有志者の群は區、町、長家、每に起るべし、而して空虛なる附屬數、家數及び群衆の數等の調査に着手すべし、數日にして此等有志者は全體の附屬、長家、住宅、別莊等の町表區表を構成し、室數、室の工合其衛生上の適否、大小、醜汚か華美か等まで能く調査すべし」「而して『自由に相互間に交渉して以て有志者は其各自の表を速かに完成すべし』「かくて其市民等は、何人たりとも見落されし者あれば、寸時も猶豫せず行いて其悲慘なる屋根下、茅屋等に住居する同志を索捜し、而して簡單に之に言はん「今度のは本當の革命です、君、其りや間違ありません、今晩是々の所にお出でなさい、皆さんが其所に居りますよ、吾々は今ま其住居を分配しかけて居る所です、此屋根下住居がお厭なら、お出でなさい、而して御悄て、ある五間の二階が數個ありますから其中の一をお擇びなさい、マア、一度其所に來て御覧なさい、恐るゝには及びませんよ、人民が武裝して居ますから、若し君を追ひ出さうとする樣な奴があれば直ぐ返報しますよ」と、「されど、吾人が爭ふて美しき家、廣き二階を望まば如何にせん」、とは直ちに起る疑問なり、されど是れ誤れり、月に向つて時說する如きは平民の爲す所に非ず、吾人は曾て平民が不可能の事を要求せしことを知らず、素より吾人は今の社會の各個人に主我的本能の旺盛なることを拒否するものに非ず、されど之が爲めに其事務を官廳若くは理事局の慈悲に一任せんとするものあれば大に抗議すべし、蓋し若し人民自ら町、區等に從て團結し、夫々住居の分配に力を盡さば些少の不衡平位は苦もなく默過せらるべし、若し萬一已に能はざる場合ありて、之を訴ふるものあらんか、其訴は決して不問に付せられず、勞働者の獻身的努力と勇氣とは之に答ふるに決して過無かるべし。

▲第七章　衣服

食物、住居の問題に次で起るは衣服の問題なり、されど凡そ衣服を販賣貯藏する所の店舖及び倉庫を人民の名に於て占領し而して何人と雖も其必要に從て之を取り得る樣、其門戶を開放するは、蓋し難事に非ざる可し、素より吾人は市民全體の外套を奪い、總ての衣服を群衆に着せ、彼等に分配せんと欲するに非ず、既に外套を有するものには分配するを要せず、餘分の外套を有せざる者より奪ふを要せざるは明なり、「されど何人も皆黑毛裘の外套や天鵝絨の『晩服を好むべし、』とは、反對者の叫ぶ所なり、是れ斷じて然らず、婦人必ずしも皆大[illegible]に恐れず、亦た男子必ずしも皆黑毛裘を要想せず、今日にても、吾人若し各婦人に向て何れの服を選擇するやと問はゞ、却て單純なる衣服を好む者あるを見ん、凡そ奇を好んで却て實用的上衣を用ふるは華奢なる社會の好む所なり」若し夫れ其他群細なる施設に至りては食物、住居の場合の方針に從て不都合無く處置するを得べし、而して其材料と產業と漸く豐富なるに從て今日の奢侈品も明日は普通品となるべく、社會が各人に其普通必要品を供給せば、其餘は各人各自好むに從て調製することをも得べし。

▲第八章　方法と手段

「一社會、一都市、一地方にして、其住民生活の必要物を保證せんと欲せば、勢ひ其生產に必要なる物件、即ち土地、機械、製作所、運搬機關等を所持せざる可らず、私有者の手中に有る資本は之を其社會に轉歸し收用すべし」紳士閥社會が爲す所の大弊害は、啻に資本家が各種の產業上商業上の大部分の利益を橫領して以て自ら勞働せずして生計を豐にするのみならず、其一切の產業が不法なる方針に向ひて、萬人の利福の爲に行はれざるに在り「されば現制度の害惡はロドベルツス及びマルクスが言へる如く、生產の「剩餘價格」が資本家に歸するの點に有るに非ず……剩餘價格其ものは、深き原因の一結果に過ぎざれは也、害惡は剩餘價格を有する所以に存す、蓋し剩餘價格の存するは、即ち男女小兒をして饑に迫らしめ、以て己が勞働の生產額の一小部分の爲に甘んじて身を賣らざる可らざらしむることを意味する也……されば或る職業の利益を公平に分配するとも、同時に他方の勞働者の多數が押領せられんか、未だ滿足するを能はず、問題は、人類の精力を可及的に少く費して萬民利福に必要なる物品の最大數量を生產することに在り」而して是れ共產制度を建設して初て實現し得る事に屬す然らば「一人の男子が、其家族の爲に滋養食物、心地善き家居、必要衣服を生產するに一日幾時間の勞働を爲せば可なるか？」クロポトキンは五人の家族を有する男子が其衣、食、住を得るに要する時間を精密に計算して後、記して曰く「吾人は地球の果實を獲得するに六十半日（一每日五時間勞働を單位とせる故半日と言ふ）住居に四十半日、衣服に五十半日を用ふれば足る、即ち祝祭日を除いて一年を三百日とせば、每日半日宛にて半年間勞働すれば足る也、而して尙ほ百五十日殘存すれば之を以て他の生計必要事物――即ち酒、砂糖、珈琲、茶、家具、及び運搬等に用ふべし」然れども以上は是れ現在の文明の程度を標準とせしものなり、共產主義實行と共に急速なる進步を遂げし機械に於ては尙ほ多大の餘裕を生じ、且つ其製作物の上に驚くべき進步を來すべきは論を俟たざる也。

▲第九章　娛樂の要求

「されど人は單に自ら食い、飮み、且つ家住することのみを以て其目的とするものに非ず、其物質的要求が滿足せらるゝや否や、直ちに藝術的性質を有する他の要求が猛烈に彼等を刺激するに至るべし」而して共產主義の社會に於ては各人が時間に多くの餘裕あるを以て、自由に自己の好む所に從て或は科學の研究に、或は文學の研究に、其他種々なる藝術、娛樂に深く心を注ぐことを得べし、更に之が爲に有志の結社も起るべく、便利なる機關も生ずべし、かくて「今日無意義なる小數者の特權たる事物は、遂に萬人の所有に歸すべし、而して奢侈品は家族階級の愚劣なる而も自慢なる裝飾たらずなりて一の藝術的娛樂とならん」而して共同生活の利益に於て奢侈を著し、藝術的作業を成し、其他娛樂の目的を成就するは、一の高貴なる心情に基く事業となるべし、クロポトキンは尙ほ本章に於て娛樂的生活に關する趣味ある新說を揭げたれども之を省略す。

▲第十章　快き仕事

「資本より解放せられし社會は仕事を快よき樣になし、厭ふべき又た不衞生的なる賤役は禁止せらるべしとは、社會主義者が殊に高聲に絕叫する所なり、然れども吾人は今日に於ても尙且此方面に於る驚くべき進步を目擊するを得べし、但し此の如く進步せる所に於ては、之に依て勞力の省略を行ひ得ること雖も、之に依て祝福を得るものは常に雇主なり」されば一朝共產主義の社會となりて一切の事業が萬人の幸福を目的とするに致らば、機械の發達、智識の進步、勞力の省略は直ちに是れ人類全體の幸福となり、有ゆる勞働が科學の應用、機械の精巧、材料の豐富に依りて愉快なるに至るべし。

又革命に依りて社會が一新せられて後には、今日人數の賤役たる家庭奴隸を消滅に歸せしむべし、但し其消滅する狀態は、共產介論者（Phalansterians）又は强制的共產論者の夢想する如きものに非ず、各人個別の家庭を組織しつゝ、精巧なる機械の設備、便利なる家屋の建築等に依りて、臺所の仕事は頗る愉快に且つ容易にするを得べきなり「婦人を解放するとは、啻に婦人の爲に大學、才判所、議會等の門戶を開放する事のみに非ず、蓋し此の如き「被解放」婦人は常に其家庭勞働を他の婦人に轉嫁すべければ也、婦人の解放とは、臺所及び洗濯所の苛酷なる勞働より婦人を自由にする事なり、再言すれば婦人をして社會的生活に加入するに充分なる餘暇を有せしめ、且つ之と同時に婦人の意に從て其子供を自ら養育し得るの餘裕あらしむる如く、家庭を組織する事なり」されば『自由、平等、一致等の美語に醉える革命も、若し家庭に於て奴隸を存せんか、之を革命と言ふ可らず、竈奴隸に置へられたる半人は、尙ほ須く他の半人に對して叛逆すべき也』。

▲第十一章　自由合意

「吾人は遺傳的の偏見と、絕對的に不正なる教育訓練とに基きて政府、法律、官廳を見るの習慣を得たり、而して警察の注目する事無き曉には、人類は恰も猛獸の如く、己が同輩を八ツ裂にもすべしと信じ、若し官廳が革命の爲に顚覆さるれば茲に無秩序擾亂を現ずべしと信ずるに致れり、かくて吾人は其眼を閉て以て、彼の法律の干涉無くして自由に自ら組織を成せる幾千萬の人類の團體あるに注目せず、且つ其團体が彼の政府保護の下に發達せる團體を無限に超絕するに至りしを知らざる也、讀者若し日刊新聞を開かば、其數頁が全然政治的相場師と政府との記事を以て充さるゝを發見せん……行政命令を待たずして發生し、成長



Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

し、發展せる、事物に就ては其中一も掲くる無きを見ん」更に多くの歴史を見よ、其詳記する所は大抵王若くは議會の事に關するなり、而して吾人は現に驚くべき大事業が人民内より起り、自由合意に依りて發展し來れる事を見る也、例へば彼の十七萬五千哩の延長を有し マドリッドより聖ペテルスブルグまで、カライスよりコンスタンチノーブルまで、乘換もせずして旅行し得る大鐵組織を見よ 更に一停車場に投じたる小荷物が、一枚の紙片に所先を記する外何等の形式を要せずして土耳古又は中央亞細亞の宛名の箇所に達するを見よ、此に何等政府の命令あるに非ざる也、政府の監督あるに非ざる也、且つや其大組織を成せる鐵道は數多の小會社が有する切れ〲の線路より成立せる也、而して「此の總ての事業は自由合意を以て行はるゝ也、書面の交換、申込の交換、及び各代表者が特殊の問題を討議せんが爲に――立法を作るが爲に非ず――相會する大會を以て取扱はるゝ也」「且つ其組織に於て尤も興味ある事項は其鐵道の歐洲中央政府無き事なり! 然り何物も無し! 鐵道大臣も、執政官も! 且つ大陸會議すら、且つ理事局すら之を存せず、有ゆる事件は契約を以て行はるゝ」されど此の例は不完全なる點を存す、蓋し此組織に於て、強者の弱者を、富者の貧者を、押領せるの事實を脫かる能はざれば也、是れ實に統計家が其慣用のロヂックを以て吾人に敎る所なり、曰く、見よ、國家の干涉は此の如き押領を絕止するに必要ならずやと、されど彼等は歷史の敎訓を忘れたり、即ち彼等は、國家其ものが、第四級民を造り、之を押領者に付與し、以て現時の制度の爲に盡せしと如何に大なるかを吾人に語らざる也、又た彼等は其押領の第一原因――私有資本及び貧困(其三分の二は國家が人工的に造れる也)――を存續せしむるも尙ほ之を絕止するとを得可きや否やをも吾人に語らざる也」尙ほ一の反對論は起る可し、曰く、其合意は完全に自由なりと稱する可からず、蓋し大會社は小會社に對して命令す可ければ也と、吾人は之に答へて曰はん「資本の存する限り、大資本は小資本を壓制す可し、されど其壓制は資本のみより生せしものに非ず、是れ又た國家が彼等に與へし補助に因るものなり、國家が其大資本を助けんが爲に造れる獨占事業に因るものなり」、而して今、吾人に必要なるは、此等の多くの鐵道會社の合意が一の中央政府の干涉を待たずして成立せるの點に在り、以上の外、自由合意に依りて成立する大組織の事業尠からず、和蘭に於ける運河交通事業の如き、英國救難協會の如き、亦た赤十字社組織の如き、皆然らざるは無し、而も是れ唯だ著大なる例に過ぎず、更に稍々小規模の團體を擧ぐれば吾人は殆ど無數に之を得べし「國家は其廣大なる權能を私人に讓渡し依賴し來りぬ、各所に於て自由團體は國權の範圍に進入し來りぬ」

▲第十二章 反對論

今吾人の論せんとする所は專制的共產主義に非ずして絕對的に個人の自由を立てんとする無政府的共產主義なり、之に對して先づ起るべき反對論は次の如し、曰く「若し各自の生存が保證せられんか、而して若し賃銀を得るの必要が勞働を人に強ゆる事無らんか、遂に何人も勞働を欲せざるに至らん、人若し勞働すべき事を强制せらるゝに非ずんば、各々其責任を他人に讓るに至るべし」と、是れ一方に於ては、賃銀勞働に依て果して有力なる效果を收め得べきかを事實に徵して考へず、又た地方に於ては任意的勞働が現に賃銀の爲にする勞働よりも遙かに多產なるに非ざるかを事實に徵して考へざるより生せし反對論なり、此反對論の實證として米國に於ける共產村が多く不成功に終りし事實を引くと雖とも、是れ少しも反對當事者の主張を顧みざる辯護士の辯論と同じく價無きものと言はざる可らず、現に資本家主義の經濟學者中にすら、「饑餓の威迫が人をして生產的勞働に服さしむる最良の刺激なり」てふ定論を疑ふ者あるに至れり、反對論者は「强制せずんば民衆は勞働せざる可しと恐る、されど十九世紀に於て吾人は之と同じき恐怖の聲を二度耳にせるに非ずや、即ちニグロ解放前の米國に於ける非禁止論者と、農奴解放前に於ける露國貴族より之を聞けるに非ずや、「鞭無くんばニグロは働かざらん」と非禁止論者は言へり、「主人の監督を脫せば農奴は野を棄て、耕さゞらん」と露國有奴者は言へり……而して總て事實は其誤謬たることを證明したり」、即ち、物質的、藝術的、道德的要求の滿足は、常に人をして勞働せしむる最も强力なる刺激なり」。「さて人々生存に缺くべからざる勞働は手足勞働なり……而も生存の基礎たる此の勞働は明かに各人が遁からんと欲する所なり」蓋し今日に於ては、手足勞働は一の呪はれたる勞働なりと考せらるゝ也、而して總ての人は早く獨立の地位を占領し他人の勞働に依て生計するの身とならんとを夢想する也「世に手足勞働の一階級と腦髓勞働の一階級、黑腕と白手との存する限りは此狀態は存續すべし」されば、こそ、吾人は此差別を絕止せんが爲に賃銀制度の禁止を要求するなれ、社會的革命を要求するなれ、而して人をして各々其才能を自由に發揮するに至らしめんと欲するなれ、即ち共產制度を實施せば一切の工業を改良し、機械を完全にし、手足勞働をして趣味ある勞働たらしむるを得べき也。

されど尙ほ反對論を生せん、曰く「されど尙ほ危險を生ずべし、即ち勞働を欲せざる怠惰者を生じて、著しく勞働が愉快なるに係はらず、規則的慣習を守らざるに至らん」故に官廳、裁判所、警察署等が、假令新なる罪惡の原因たるべしと雖とも、尙ほ之を存するの必要あり」と、されど「自由勞働主義に基いて成立せる社會にして、若し怠慢者の妨害を蒙るとありとすとも、尙ほ權力制度或は賃銀制度に復歸するを要せずして、團體自ら自己を擁護し得ると明白ならざる乎」今ま一の事業の爲に有志の一團體起れりとし、此塲合に於ては以上の如き怠惰者あらざる可しと雖も、而も若し萬一之ありて其事業を妨ぐるあらんか、其時は之に告ぐるに次の如くすべし「君! 皆なで一緖に働うぢや無いか、君が時々居なくなつて、仕事を怠けるものだから、ツイ僕等と別儞になるよ、行かう、他の諸君も君と一緖に終さうと思つて居るぜ!」之れ今日、何れの處に於ても實行せらるゝ所にして實に自然の方法と言ふべし、若し夫れ結局に及んで尙ほ其團體と運命を同うせんことを欲せざらんか、其團體は自由に此を去りて相離せる多くの他の團體何れになりと附するを得べし、之を要するに現在の資本家組織、賃銀制度の下に於てぞ資本家及び勞働者の中に怠惰者あるを見ると雖ども、眞に自由なる社會に於ては之が爲に妨げらるゝと萬々之あらざる可し。

▲第十三章 集產主義的賃銀制度

「吾人の見を以てすれば、集產主義者(マルクス派社會主義者)は其社會改造の考案に於て二重の誤謬を存す、彼等は資本家制度の禁止を說き乍ら、尙ほ此制度の眞基礎たる二個の制度――即ち代議政體及び賃銀組織を維持せんと欲するなり」代議政府は中等階級が其國の君主に反抗し、勞働者に對して權勢を保持せんが爲に建設せられし制度なり「此制度の主張者は、國會又は市會が國又は市を代表する者なりとは、曾て眞面目に考へざりし也」而て人民は漸く此制度が自己の利益幸福の爲に活動するものに非ざるを覺り來れり、故に諸國の民主主義は無益に彌縫的の新計劃を立てんとしつゝあり、直接立法(是れも失敗なりと稱せらるゝ)の如き、比例代表說の如き、少數代表論の如き、即ち皆是なり、而して彼等は遂に其方法の惡しきとを承認するの已むを得ざるに至り、代議政治に對する依賴心は消滅しつゝあり、「賃銀制度に就ても亦同じ、彼等既に私有財產の禁止を要求し、一切の生產機關の共有を要求する以上、如何にしてか能く賃銀制度を保持するを得ん?」而も集產主義者は尙ほ勞働切符を設けて以て勞働に對する報償制度を保持せんとす、其切符は勞働時間を記入せるものにして報償は其時間に應じて支拂はる、更に多くの集產主義者は勞働の性質を分類し、其單純なるもの、特別なる技能を要するものとに從て報償を異にせんとす、彼等は社會的革命を宣言す、而も之より生ずべき當然の結果を無視する也、即ち彼等は、生產機關の私有を禁止せば、社會は全然新たなる方途に向はざる可らざるとを忘却したる也、「吾人を以て之を見れば、此の如く絕對的に相反せる二主義を基礎とせる社會は到底存立すべからざる事明かなり……而して此の如き組織を有する國若くは市は遂には其生產機關を私有財產に復歸せしむるか、或は、直ちに自ら共產主義社會に變改するの己む無きに至るべし、假令此制度が成立するにもせよ、集產主義者の意見に基きて勞働に種類を分ち、例へば、學士、醫士の一時間の勞働に對しては、鍛冶屋、看護婦の二時間或は三時間分の報償を與ふる如き制度を存せんか、其不公平は今日の資本家制度と變はる所無かるべし、蓋し此制度は其方面に於て敎育の獨占、未來の獨占を意味するものなれば也、集產主義者は言ふ、「各自が社會に致せる勤勞に準じて之に報償すべし」と、蓋し之を以て眞の正義となすなり、然れども今日如何にして能く各人の勞働を個別に計量するとを得べき、一人の勞働者と雖ども全然孤立して生存し得るものに非ず、一時間の勞働と雖ども全然孤獨にて實行し得るものに非ず、人類祖先以來の無數の勞働を費して以て今日の文明を爲し、其文明の中に生存する世界の同胞は皆な互に相輔けて生活する也、時間的空間的に吾人は他人の無數の助力に依て生存し



Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

勞働し得るものなれば、各個人の勞働を個別に計算するは不可能事と言ふべし。

▲第十四章　消費と生產

『吾人は社會を觀察し、又其政治組織を觀察するに、彼の強制主義者(Authoritarian)と自ら其立脚點を異にせしが……今ま經濟問題に於ても亦た同方法に從はんとす』、試みに或る經濟學者の著作を繙け、必ずや其第一篇に於て『生產』を論ずるを見るべし、即ち富を造出するの方法を分拆するを見るべし、是アダム●スミスより、カール●マルクスに至るまで、皆な同一轍に出づる所なり而して各個人の要求を滿足するの必要手段に就ては——即ち『消費』に就ては　唯だ僅かに其書の後方の一小部に記述するのみ彼等は之を以て論理的なりとなす、然し人は其要求を滿足するの前に、先づ之を滿足せしむべき事物を造出せざるべからざれば也、然れども、吾人は或る物を生產するの前、先其要求を感ずべきに非ざる乎、先要求(需要)に就て考察し、而して後其要求を滿すべき生產方法を論ずるが寧ろ甚だ論理的に非ざる乎、されば吾人の見る所を以てすれば、從來の經濟學は全然其形體を誤見すべき也、經濟學は單に事實の記述に非ずなりて一の科學となるべき也、吾人は經濟學を定義して曰く、經濟學とは『人類の要求、及び人力の最小消耗に依て其要求を滿足する方法の研究なり』故に『社會的生理學』の文字は寧ろ其妥正なる名稱と言を得べし、此の如き吾人の意見に從へば其形態を變ずべきものは啻に經濟學の一原則に止らず、多くの論點に一變化を來すべき也、例ば過超生產論の如き殆と其意義を失ふに至らん

▲第十五章　分業

社會に生起する諸般の事業を記して、權力階級の利益を標準として之を判斷するは經濟學の常とする所なり、而て勞働の分化は稱讃せらるゝに至りぬ、即ち其資本家に有利なるを見て以て之を一の原則として確定しぬ、村落の鍛冶屋を見よとは、近世經濟學の祖アダム●スミスの言し所、彼は分業法による釘の生產力が舊來の單獨法に比して殆ど一千倍の數量を生產し得る事を示したり、而して亦此分業法を是認する所の科學の誤謬を恐れざる多くの社會主義者あり、然れども分業が益々細岐に及ぶに從て、勞働者は全然機關の一部となり、勞働は單調となり、無趣味となり、而して彼等は勞働を愛するの心を失ひ、發明の才能を消却するに至るべし、分業主義は又地方的にも行はる、即ち英國は何を產し、巴里は專ら何を輸出すといふ如き是なり、然れども工學の智識の普及及び科學上の發見は增々生產業を普及的ならしめつゝあり、故に今後は外國產物に對して法外の代價を支拂ふの必要無きに至るべし。

▲第十六章　產業の分置

十八世紀の末葉、佛國に勃興せし產業はオポレオン戰爭の後、英國の爲に破壞せられ、英國は市上の主權者となり、又產業の獨占者となりぬ、然るに其後、佛國中流民革命が農奴を禁止して四級民を發せし時に當り、更に一時其產業を衰頽せしめしと雖ども、十九世紀後半に及びて、新たに元氣を回復し、佛國は既に英國の從屬者ならざるに至りぬ、少しく東方に及んで獨逸の產業は如何、五十年以前に於ては全く英佛の從屬者たりしに係はらず、普佛戰爭以後に至りては全然自ら獨立して其產業を組織するに至れり、更に東行して露國の如き、一八六一年の農奴解放の時に際しては、工場の見るべきもの殆んど存せざりしが、其後二十年を經るや、既に八萬五千の工場を有するに至れり、絹布產業を以て一時世界市場に獨占權を掌握せる佛國は、既に其不可能なるを自ら覺るに至れり、英國の綿布產業に於けるも亦た之と同じ、曾て獨逸が英國より輸入せし綿布は今や自國內に於て充分に且つ經濟的に製作するを得るに至れり、機械學の智識、科學上の發見が世界各國に對して等しく其利益を分つに至りて、曾て獨占的なりし事業も今や世界普遍的の事業となれり、從て機械を輸出して機械を輸入し、棉花を輸出して綿布を輸入するごいふ如き不便不經濟を敢てするの必要無きに至れり、伊太利、西班牙、墺太利、メキシコ、印度、北米合衆國、日本、何れも漸次に產業上の獨立を得るに至りぬ、何れの所何れの點に於ても、產業の傾向は分配的に赴きつゝあり、此に於て各國は可的多種なる鑄造所、製作所をして農業と結合せしむるを便利とす、經濟學者が熱心に唱道せる產業の分業は多くの資本家を富ませしこと雖ども、今や其用あるを見ず、之に反して各地方、各國土は、各々自己の麥、自己の野菜を作り、內國にて消費する一切の物を製するを以て便利とすべし、農業は唯だ製作所の隣地に於てのみ繁昌すべし、又た之と同じく一の製作所と雖も其周圍に雜多なる製作所の起る無くんば孤獨に存立する能はざる也、相互の研究に依て相互に扶助し相互に刺激して、此に彼等の生產力は增加する也、彼の『鑛山、製作所等を社會の公有となせば、各人は從前の如く勞働して而して革命を成就すべし』といふが如き是一の夢想と稱すべし、社會革命は決して此の如く單純に行はるべきものに非ず、一朝革命の發するあらんか、勞働者は直ちに腕を以て前章に述べし如き收用を行はざる可らず、國際貿易は停止すべし、外國パン粉の輸入は停止すべし、物品と食物との運轉は斷絕すべし、されば叛逆に起りし都市又は地方は直ちに自ら之等の準備を爲し、生產業を再開せざる可らず、若し之を誤らんか革命運動は死せんのみ、吾人思らく、若し倉庫にして空虛ならんか、人民は其食物を土地より收得せざる可らず、彼等は勢ひ土地を耕すに至るべし、其都市及び周圍の產業と田舍の農業とを結合せしむるに至るべし、市民は革命の間に直ちに自ら農業を組織すべし、固より貸銀農夫が鋤鍬を執りし如き狀態に非ず、精巧なる機械により、豐富なる材料により、科學上の智識により、恰も園丁の栽培業の如き方法を以て、快き勞働によりて、其目的を達するを待べし、然り而して其都市若くは地方は、政治上に經濟上に全然獨立を保持するを得べき也革命とは單に政府組織の破壞に非ず、人類智識の覺醒、發明的精神の激增を包含するなり、新科學の黎明光を放射するなり、制度の革命よりは寧ろ人心の革命たるなり。

▲第十七章　農業

假令或種の產業には時々過超生產の事實を現するにもせよ、社會は到底萬人の幸福を滿すに充分なる生產を爲すと能はず、從て何人も勞銀の爲に其勞働を賣るの要無きに至るの時來らざるべし、とは、是れ經濟學者が暗默若くは明白に承認する所なり、然れども事實は之に反し、工業に於て、農業に於て、其生產が吾人の生計を裕福ならしむるに餘あるべきとは既に前章に說きし所なり、更に進步せる科學の應用により、精巧なる機械の設置により、農業は益々其生產を幾多にし、農作業は益々愉快なる、容易なる、淸潔なる仕事となるべし、又た共產主義の社會となりて、一切の勞働が萬人の要求を充すを目的として、貸銀を得、若くは私利を營むを目的とせざるに至らんか、今日奢侈事業とせらるゝ園藝の如きも普通の事業となりて、更に大規模に行はるゝに至るべし、更に今日星を戴いて出で月影を踏んで歸る所の農業者が、多くの時間の餘裕を得ると共に農業上の發明と進步とは驚くべき現象を呈すべし、次で牧畜業の如き、耕作業と共に多大進步を爲すべきは言を待たず、蓋し肥料は、耕作法の進步に依りて飼養料の生產增加すべければ也『唯だ人類をして其可能なるを自覺せしめよ、唯だ其自覺をして意思の力とならしめよ』唯其精神の準備が今日迄で革命を遲延し瞭礎なるを知らしめよ』、あゝ無政府共產主義の社會よ、『數千町の土地は荊草を以て蔽はるべし、而して男も女も、優しき美しき指を以て草木に萌ゆる翠芽を撫育すべし他の數千町は蒸氣機關を以て耕され、豐富なる肥料を以て改善せられ、時には其勞働者の樂しき群衆が幾つもの團隊を組みて其田野に群り集ひ、農作に明るき人々に導かれて或は實見を爲し、或は作業を爲し、萬人の幸福の爲に勤勞を盡すとあらん』。

。　。　。　。

以上はクロポトキンの大著 The Conquest of Bread の概梗なり、予は餘りに省略に勉めし爲め、却て玉を碎いて瓦礫と成せしを憾む、唯だ讀者が之により、無附共產主義の大意を會得するの緒を得れば幸なり、若し夫れ之に對する批評に至りては、乞ふ之を他日の機會に待たん。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

## 海外時事

### ○英國婦人選擧權成行

▲英國朝野の間に難物視され居りし婦人選擧權問題は二月末日英國下院の討議に上り其第一讀會は九十二に對する二百七十一の大多數を以て可決されたり。

▲但し該案は下の如き制限を附する事に修正されつ。即ち選擧人たるべき女子はすべて自己の名義を以て登錄されたる、特別の住宅を所有し居り、他人の住居に寄宿同居せるものを除くと。此制限は日本人の目より見れば頗る寬なるが如きも、歐米に在つては極めて少數者を除き規定の權利を有するもの希也。

▲當日該案通過の運動に熱狂せる婦人連は上院門前に集合し、半ば示威運動の意味を以て犇々と詰め掛け、其結果を待設け居たるが、警官の鎭靜も宜しきを得、婦人軍も亦極めて靜肅なりき、たゞ討論終決後退出議員中の贊成者に對し大聲萬歲を唱へしに止まりたり。

▲尤も該案の二讀會は本會期中に開かれず多分握り潰しに終るべしといふ。蓋し婦人連の劇烈なる運動に堪へかねて故らに一讀會を通過せしめ置きて暗に葬るもの、如しといふ。

▲吾等は此法案を以て未だ女權擴張の理想を滿足するものに非ず、然れども英國婦人が積年の熱誠が然かく議會を動かすに至りしは吾等の甚だ讃歎して措かざる所なり、優柔にして逸樂に耽る日本婦人諸姉よ、御身等の胸中、亦た人の子の紅き血潮の奔潟しつゝあると無きや。

### ○婦人社會主義者 ルエーラ・トワイニング

昨年、米國西部坑夫同盟會員、ヘーウード・モーヤー。ペッチボン三人に對する疑獄起るや、米國全州の人民の眼は期せずして此の事件の上に集り、或者は三人の有罪を信じ、或者は無罪ならんと主張し、飛說徒らに紛々たりき。其の時熱心に三人の無罪を主張して世人の疑惑を解くべく、遙々コロラド州デンバー市あり紐育に赴きたる勇敢なる社會主義の婦人ありたりき。

此の婦人は紐育市を始め東部のあらゆる市街に於て演說し、辯舌を揮つて三人者の寃枉と政府の橫暴を鳴らしぬ、聽衆は此の婦人の力ある熱心なる雄辯に太く感動され、立處に多くの寄附金を爲して三人の裁判費用に充てぬ、此の勇敢大胆なる若き婦人はルーエラ、トワイニング孃にして、彼女は十ヶ月間に西部坑夫同盟の爲めに數百回の演說を爲し、十萬・千弗の保護金を募集しぬ。纖弱なる婦人の舌の力も又た甚だ偉大ならずや。

彼女は辯舌に於て一種の天才にして、彼女は彼女の演說を聽ける凡ての者をして成程道理と頷かしむるの妙腕を有せり、彼女は西部坑夫同盟を惡し樣に言ひ罵り、ヘーウード、モーヤー、ペッチボン三人、兇撿乱を好む無賴漢の如くに曲筆する資本家新聞に對しては激しく非難して毫末も假借せざりき、彼女の大膽と熱心と魔力ある辯舌とは能く此等の、御用新聞記者輩を屛息せしめ、紐育市民の多くをして三人者の寃枉を知らしむるに至れり。

ルーエラ、トワイニング孃はコロラド州デンバーの人なり、姉はフローレンス、トワイニングと稱し、社會主義の眞實なる使徒にして而して婦人選擧權の熱心なる主張者なりき、彼女が社會主義者と爲りしは主として母の感化に依る、此の女にして此の母ありと言ふを得可き乎、彼女の祖父は最も深く婦人の悲慘なる境遇に同情して、念々婦人の獨立を思慕して已まざりし自由思想家なりしと言へば、思ふに彼女が主義の爲めに大胆、眞實、熱心なる性格は此の祖父よりの遺傳にして、彼女の血管に漲るは祖父が世界の姉妹の爲に灑ぎし溫き血汐ならん。

ルーエラ、トワイニング女史は熱烈なる婦人選擧權論者なり、彼女嘗て曰く。

我がデンバー市の姉妹は、老いたると若きと、富めると貧しきとを問はず、何れも政治上に多少の趣味を有せざるは無し、婦人をして政治上に趣味を有せしむるは、婦人を經濟的に解放して獨立の人格たらしむる一段階なり、然るに東部の姉妹を見るに彼等は全く政治上に無趣味、無識無學なるが如し、此れ余の最も驚く所なり、東部の婦人が政治上に盲目、無趣味なるは即ち彼等が全身全心を擧げて男子の足下に蹂躙せらるる所以にして、彼等が永遠に社會的奴隸の境遇を脫せざる所以の理ならずんばあらず、各州の姉妹諸君は自己の自由の爲めに奮起して大同團を造り、熱意婦人選擧を主張せざるべからず、世界十五億の人類を二分して其の一を有する我々女子にして何時迄も男子の權力下に屈伏して可ならんや、我々女子が一朝自覺して虛榮と卑屈の睡眠中より起つの時男子は始めて女子の侮るべからざるを知り、多年揮ひし壓制の鞭を捨つるに到らん、茲に於て世界は始めて獨立せる男子と獨立せる女子との共同生活團體たる實を擧ぐるに到らん。之れ余が念々不斷に憧憬する理想の實現也。

社會主義者としての彼女は、又た他の聰明なる社會主義の婦人の如く、賃銀奴隸たる勞動男子の經濟的解放と共に女子の經濟的獨立の實顯に向つて努力せざる可からざるを信じ居れり、經濟的獨立は他の凡ての自由の基礎なる事を確信せるが如し。

ルーエラ、トワイニング女史が嘗て熱辯を鼓して、其の寃枉を天下に訴へたりし、西部坑夫同盟會の有名なる三人男は今や全く靑天白日の身と爲れり、彼女の壯志始めて酬ゐられたりと言ふ可き也。

### ○次號豫告

次號には御なじみの△安部磯雄氏の住●食衣論△大石祿亭氏の宗教家と革命家△其他、靑年寄書家諸君の花の如き詞、火の如き文を加へ、更に

社會民主主義の祖 カール マルクス　（石川旭山述）

エンモンドバーク氏の 自然社會論　（無名氏譯）

を掲載して讀者諸君の研究資料に供せんとす、カール●マルクスに就ては讀者の既に詳知する所なる可ければ言はず●バーク氏の自然社會論は政治上に於ける自然主義の一派と見るを得可く、又た本號所掲のクロポトキン翁に對して●個人的無政府主義の一種と稱するを得可し、讀者乞ふ次號を待て。

### ▲編輯局より

△先月の號外　五月號は印刷所の變心によりて遂に發行することを得ず、已むを得ず、號外を發行し、實情を陳べて直接講讀者へ御詫を申して濟きました、編輯局にては充分定期に間に合ふ樣に準備をなして全部の原稿を印刷所に引渡せしに、印刷所は無法にも期日間ギワに迫りて突然印刷料を二倍にせよと强請し、吾等をして先月分の發行を不可能ならしむるか、又は其要求に屈從せしむるかの、二點に窮迫せしめました、印刷所は大なる資本家であります、吾等は之と爭ふとも結局彼は何等の痛痒をも感せずして、吾等の窮境を冷眼視するのであります、吾等は痛恨の淚を呑みて、先月號の發行を中止し、僅かに號外を出して御詫を申した次第です。

△本號發行の遲延　前段の如き始末にて從前の印刷所と手を切りて新たに好印刷所を見出さんが爲め、アチラに走り、コチラに談ずる內、何時しか時日遷りて遂に定期より十日間も遲れる始末となりました、讀者諸君中には三四回も御問合せ下れし方もあり、何とも申譯無い次第であります、何分にも無資本なる、魯鈍なる、而も弱き女の身にて此重大なる事業に當ります事なれば、到底滿足な事の出來やう筈がないのです、讀者諸賢ドーゾ御察し下さい、ドーゾ御宥し下さい。

### ◉同志の手紙

▲田中正造君より　天國に行くもの…獄に行くは即ち天國に行くなり、但し、地獄に入るの罪あるものが獄に入るは即ち地獄に行けるなり、同じからず、前には地獄を語らずして天國を言ふのみ、石川三四郎君近々出獄せらる、天國より天國に移住するのみ、其歡迎會は移轉の御祝なり、祝すべし〳〵、國家が造られる天國より出でて造化のなせる天國に移轉するなり、祝せざるべからず云々……戊申四月三十日、品川行途上にて　谷中の正造

▲田添幸枝女史より　拜呈、號外發行の理由拜讀致しまして眞に御同情に堪えません、囚はれたる婦人云々拜讀致しましては又殊更の思が致ます、鉄面もゆるが如き思にしづみつゝありし事とて情けに甚しく感動致しました不幸の內には尚は不幸の襲ふものにや、その後子供の病氣にて何分手がはなされませず、それにめしたさの慾やがありましたので留守居もありませぬので今日まで御無沙汰致して居ります

▲吉田大輔氏より　啓上何とも申譯ない御無沙汰、只管御詫び申上げます、物の數ならぬ小生杯の病氣の御耳に入りたりとて、アノ樣なる懇切なる御見舞を蒙りましては、實に感謝に堪えざる次第です、御かげ樣で大變快くなりました、床の上ながらも、貸借書籍の整理など爲し得る樣なりました、さうから御宅に鉢を御伺はせ申度い御伺はせ申度いと思ふて毎日云い暮して居りますのですが、パンの事や何かで逐ひ廻はされて、それに老母が看病の疲れが出た爲に持病がヒドクなりますなどして居ますので、何分思ふに任せませぬ御ゆるし下さい、諸兄姉の御れんごろなる御慰言と力ある御勵聲の下にある小生は一日も早く起き上つて驥尾に附し、吾が主義の爲め何かな人間相當な働きが出來、諸兄姉の深厚なる御同情に答へん日の來んことを待ち望みて居ります、老父母よりもよろしく御禮申上げ與れと申されました、不順の折御攝生を祈る

▲米國、ABC●君より　世界婦人は常に友人の手な通して拜讀御骨折りの程感謝仕り候、多事の際益々御奮勵の程遙に懇願仕り候、甚だ失禮ながら世界婦人にはモ少し、日本婦人界の出來事を批評し御報道なされては如何のものにや、愚考申上候、日本には婦人雜誌には革命的色彩を帶びたもの一も無之今日、世界婦人の任は頗る重大なるものと存候、貴下の御盡力を矣々も懇願仕り候

▲宮崎滔天氏より　拜復、病氣も漸次快方で　五日內よりは外出も許される事と樂み居り升、御安心を願ひ升家は毎日の大繁忙です、貴姉等一人御渡歐下されても結構です、閑暇御來臨願ひ升

### 謹告

永らく同志諸君の御配慮を蒙りました

同賜はりし御厚情、世界婦人紙上にて御禮申上ます

五月十九日　石川三四郎



Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

## 海内時事

### ●建部遯吾氏の結婚

建部遯吾氏が、一昨年の冬、谷將軍の息女たる前夫人を離婚して世論を惹起し、次で高等女學校教諭村山いくといふ人が、前の離婚後半歳ならざるに同氏と結婚したるとは再び世人の嘲笑を招けるが、吾等は今更に加ふるに其再離婚の事を耳にして三度心を建部氏の身上に注ぐに至れり、建部氏に對する世間の批評は皆悉く非難攻擊の態度に出づれと、いく子氏に對する態度は一定せず、或は一も二も無くいく子氏の不運に同情するあり、或はいく子氏自身も其失敗の責任の一半を負はざる可らずとなすあり、吾等は曩きにいく子氏が結婚したる當時、其の結婚の實情をも精査せず、徒らに配偶者の地位遠來に惑ふて不謹愼にも敢て結婚するに至りしを陋として非難したり然るに僅かに一年後の今日、いく子氏が先きの得意に反して甚だ悲しむべき境遇に陷れるを聞き、吾等は往事を追想して寧ろ一掬同情の涙無きを得ずと雖とも、而も又た一般男女の爲に一言警告する所無きを得ず蓋し今日の如き、物質界精神界激變の時に當りては、人生至重の一事業たる結婚が一大困難事たるとは當代の男女が共に具さに嘗むるの經驗にして、又た曾、經驗せざる可らざる事件に屬すれば也、然らば其困難の原因は抑も何れの處に伏在するや、吾等は常に言ふ、戀愛自由の習風と、戀愛神聖の道德とを存せざるが故なりと、曩きに建部氏が谷氏を離婚したる時、吾等は之を一概に不道德と爲すの不可なるを論じたり、蓋し同氏にして眞に其結婚の無戀愛より成立せしとを自覺して遂に離婚を斷行せるものとせば、寧ろ其不幸に同情をこそ寄すべけれ、決して之を不道德として責むべからされば也、然らばいく子氏との再婚と其再離婚とは如何、是とても吾等は一概に建部氏を責めんとを好まず、蓋し建部氏が最初舊習慣、舊道德に支配せられて谷氏と結婚したるも、年月を重ぬるに從つて漸く相互の無愛情を覺るに至りて遂に離婚したりと雖とも、其二兒まで設けし妻と相分つに至りし苦痛は決して少々ならざるべく、而して一たび戀愛問題に失敗したる彼は既に精神上の負傷者なり、而して既に負傷者となれる彼は又た容易に完全なる新戀愛を懷くと能はざるべく、然も其戀愛の饑渇は一層激烈に彼に迫るべし、されば此の如き負傷者と結婚せんとするものは能く〳〵注意して其負傷の既に癒えしや否やを察し、若し未だ癒えずんば先づ之が治療に勉めて後初めて相婚すべき也、然れども此の注意は負傷者自身も施さゞる可らず、然らずんば啻に其新配偶者を傷ふのみならず、自らも更に深傷を負ふて再び挽回すべからざる不幸に沈淪すべければ也、されど彼の「婦女新聞」が「古より離婚の女子を「出もどり」といふ稱呼の下に、卑しめられ辱められて數年の中に再び良緣を得るは、殆んど不可能なり……吾等は離婚の男子に對しても亦た「居のこり」といふ一種の卑稱を與へ……「居のこり」男子とは結婚を避くるの識見を有つに至らんとを切望す」と論せる如きは固より頗る幼稚なる議論にして未だ戀愛を會得せず、又た結婚問題を解決するに足らざるの說と云ふべし、此の問題を解決すべき唯一の刀は即ち戀愛の自由、戀愛の神聖てふ根本觀念に在り、建部氏にして若し眞に此理を會得せば、深く自ら精神的大負傷者となれるとを覺りて靜かに長き攝養に忍耐すべき也、いく子女史に對しては吾等は其結婚が眞に戀愛神聖の理想に基けるものに非ざりしとを悔いて今後を深く愼まれんとを切望するもの也

### ●長谷川辰之助氏の洋行

かよはき吾等が事業を深く憫み給ひて、殆んど毎號貴重なる原稿を本誌に寄せ賜はりし二葉亭四迷氏は露國の社會と文藝とを研究し、又た日本を露國に紹介せんが爲に頃日同國に向つて出發したり、長谷川氏が文藝家として世に令名あるは今更言ふを要せざれど、而も氏自身は寧ろ所謂文士の名を冠せらるゝを以て甚だ不面目となし、殊に現代日本の文士を好まざると甚だしく、彼の西園寺首相が催せる文士招待會にすら曾て列席せざる如き畢竟俗惡なる文士連の面を見るがイヤさに然るなりと云ふ、元來長谷川氏を目するに單に文筆の人を以てするは甚だしき誤解にして、氏の胸奧に深く秘める熱血は壯烈なる新の方途に向て常に迸りつゝあるもの、如し、吾等は、氏が北歐亂餘の大國中に至りて、如何の觀察をなし、如何の飛躍を試みらるゝかを刮目して見んと欲するものに候(ひで子)

### ●石川三四郎兄の出獄

十三ヶ月の間、巣鴨獄裏の人たりし石川兄は、去月十九日早朝、刑期滿ちて無事出獄し、一先づ本社に歸着、更に郷里埼玉縣本庄町に趣かれしが、再び上京して目下本社に滯在せらる、去月三十日には社會主義同志會の發起にて上野三宜亭に歡迎會開かれ、本月五日夜には、新紀元晩餐會を兼ねて本社に歡迎の宴を開き、又た七日に至りて、金曜社發起の歡迎園遊會は十二社櫻山園香園に開催せられたり、兄は獄中にて研究しかけたる社會主義並に宗教に關する諸問題が、尚ほ半途に在れば、こゝ數月間は田園生活の中に靜養旁、其研究を繼續せんとも言ひ居れり、但し兄が獄中に於ける作物は今後本誌上に每號掲載せらるべし、吾等は本誌が之に依て大に光彩を添へんとを喜び且つ意を強うするものに候(ひで)

キユチキユラ石鹼

夏はキユチキユラ石鹼を用ゆる婦人の天地也

キユチキユラ石鹼を使用せらるゝ婦人は夏は益々艶色を增して生れついたる美貌を輝かし給ふを得べし

之に反してキユチキユラ石鹼を使用せざる婦人は暑熱の爲に肌を犯され蚤や蚊に螫されたあとが較やもすれば腫物となり或は汗疹の爲に肌が汚なくなるべし

キユチキユラ石鹼を用ひ玉ふ婦人は暑くなれば暑くなるほど美人たるべし

キユチキユラ石鹼を用ひ玉はざる婦人は少し暑くなれば忽ち散三なり美色は瞬間に消ゆるべし

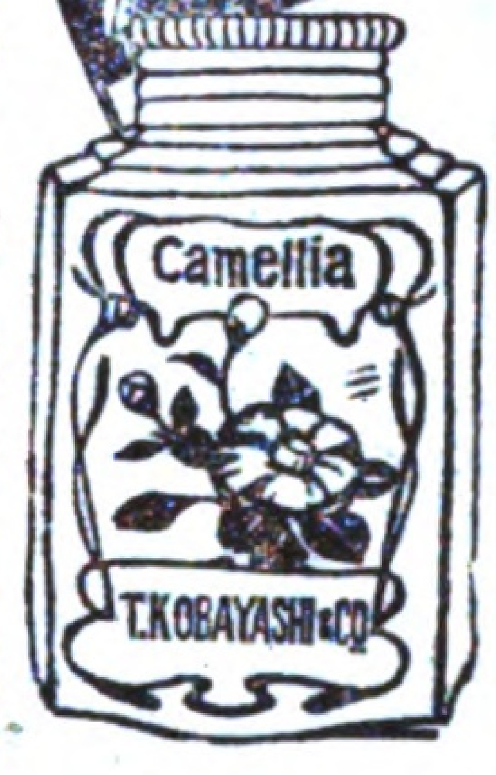
丸善洋物店

各唐物店小間物屋薬店等にあり但し買物御注意の事




Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

時代の要求により生れたるカメリヤは色白くきめを細かに艶を増し肌を滑かならしむる最新最良の洗粉なり年若き方々のみならず老年の肌には殊に効驗著し




定價　大瓶　廿五錢　瓶入　十五錢
　　　袋入　五錢　小袋　三錢
　　　罐入　十三錢

本舗　ライオン齒磨發賣元　東京神田柳原川岸　小林富次郎

露國アンドレーフ著
新譯　血笑記
日本長谷川二葉亭譯

定價　八十錢
郵税　八錢

日本文學にとつては全然新趣なもの、世界文壇に於ても全く創新なもの、象徴的にして併も神秘的なる本書は自然主義全盛の明治四十一年の文壇にとつては撼天動地の一大爆裂彈である

東京麹町區飯田町　易風社　振替一二三〇四番

ローヤル水ハ最モ高等ナル最モ進歩セル最モ名譽アル化粧水ナリ

定價　拾錢　拾五錢　廿五錢

ローヤル白粉ハ最モ改良セル最モ優等ナル無害ナル白粉ナリ

定價　拾錢　拾五錢　五拾錢

發賣元　つやぶきん　東京銀座壹丁目　佐々木商店

◉七寶側御婦人用時計

●第壹號　正價金拾圓也
七寶側十三形片硝子器械ヨルゲンシリンドル石入龍頭卷裏面体裁上圖ノ如シ

●第貳號　正價金八圓半
七寶側十三形片硝子器械ヨルゲンシリンドル石入龍頭卷裏面体裁上圖ノ如シ

●第參號　正價金七圓半
七寶側十三形片硝子器械ヨルゲンシリンドル石入龍頭卷裏面体裁上圖ノ如シ

以上裏面七寶（赤）（紫）（萌黄）（淺黄）等ノ各種同價又盤面文字羅馬數字亞刺比亞數字共同價ノ事
◉市外送料金拾貳錢
東京市京橋區尾張町貳丁目振替貯金口座五九六六
時計及寶玉類内外商　天賞堂本店　電話新橋　特三三三、三一五三
賞牌賞金屬美術品

電話（東七三三）　天賞堂大坂出張所
電話（本二六〇）　天賞堂神田出張所
電話（八七六）　天賞堂横濱出張所
電話（二二九）　天賞堂長崎出張所

◉聖書其他基督教書籍を正直廉價を以て販賣仕候
……▲書店廣告▼……
神田區駿河臺西紅梅町十二　中庸堂

各種肖像畫　應需　浦田烏城
神田美土代町二の一

●藪野椋十著北澤樂天表紙意匠及見返漫畫

新刊　大阪朝日新聞所載　上方見物

大天王寺の新鐘の巨鐘は世界第一と誇つて居るがどういふ譯か鳴らないと目下上阪人の大問題となつて居る。藪野椋十とは誰？これは當代唯一の滑稽老爺と評判されるが、此の『見物』中少も自から笑つた處が無い其れが一字一句讀者に腹をよらせるからさ不思議さ!!!

ヘイカラ版二七〇頁口繪光澤寫眞版京阪名所五十景……
定價｛一部金六拾錢　郵税金六錢

四版　大英游記
好評!!四版を發刊するに當り卷頭の地圖を改版し著者滯英中倫敦メールに投じて滿倫敦人士を驚したる英文七章を附録となして定價壹圓廿錢郵税十二錢に改む

平民科學
第三　男女關係の進化
第四　動物界の道德

本日發賣
定價各冊三十錢
郵税六錢十八錢
壹圓四錢

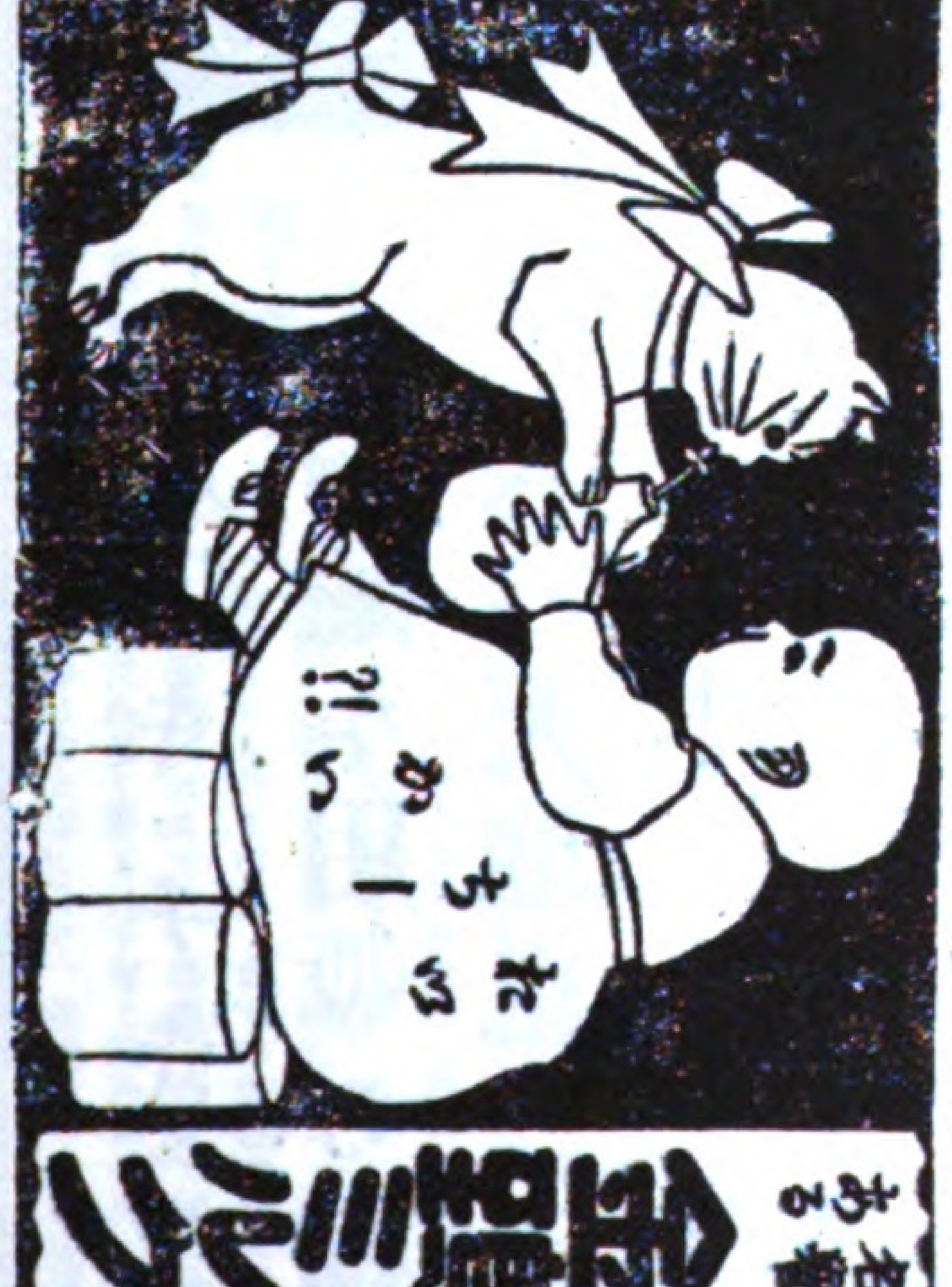
最近科學の思想を説くに平民的文字と平民的情緒とを以てしたるもの、知識と趣味と最もよく此の篇中に融和せり、全部六冊分類左の如し
第一篇人間發生の歴史（既刊）
第二篇植物の精神（既刊）
第五篇地球の生滅（近刊）
第六篇萬物同根一族（近刊）

東京市麹町區有樂町三丁目　丸の内　有樂社　振替三六〇〇　◉賣捌　全國到る所の各書店にあり

●齒科治療●
自午前八時至午後六時
齒科醫　吉瀨才市郎
東京神田須田町二十六番地
●學生勞働者諸君に限り藥價手術料共半額
●書留執※者の使を計り夜間十時迄治療仕候

小兒科
内科
婦人科
毎日自午前八時至午後六時
淺草區馬道三丁目　小牧醫院

發賣元　淺見山陽堂　東京市日本橋區大傳馬町




◎定價　▲一部六錢●十部五十五錢●二十部壹圓　▲申込は總て前金の事
發行兼編輯人　東京府豐多摩郡淀橋町角筈七三八番　神崎順一
印刷人　東京府豐多摩郡淀橋町角筈七三八番地　遠藤友四郎
發行所　東京府豐多摩郡淀橋町角筈七三八番地　世界婦人社
印刷所　東京市神田區雉子町廿四番地　博眞堂



Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY